

第1章 調査概要

1 調査の名称

子どもの読書活動推進に関する実態調査

2 調査の趣旨

県教育委員会では、近年のグローバル化や情報化の進展など変化の激しい時代において、子どもたちが将来社会人・職業人として自立し、価値観の異なる様々な人々とのコミュニケーションをとり、ともに地域社会を形成していくためには、子どもの読書活動の推進は極めて大切であると考え、令和2年には「青森県子ども読書活動推進計画（第四次）」を策定し、家庭、地域、学校を通じた社会全体での取組を通して、子どもの読書活動の推進を図っている。

本調査は、県内の子どもの読書活動の状況及び小・中・高等学校及び特別支援学校における読書活動推進に関する現状を把握し、今後の施策の企画立案に資することを目的として実施するものである。

3 調査対象と回収結果

(1) 子どもの読書活動に関する状況調査

① 調査対象

県内の小学生、中学生、高校生 約 3,000 人

※対象校は、地域バランス及び児童・生徒の在籍数を考慮して選定した。

② 回収結果

- ・小学校5年生 : 1,133 人 (調査対象 28 校)
- ・中学校2年生 : 1,035 人 (調査対象 19 校)
- ・高校2年生 : 943 人 (調査対象 28 校)

(2) 子どもの読書活動に関する状況調査

① 調査対象

県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 484 校

② 回収結果

校種	配布数	回収数	回収率
小学校	249 校	237 校	95.2%
中学校	151 校	129 校	85.4%
高等学校	63 校	48 校	76.2%
特別支援学校	21 校	21 校	100.0%
計	484 校	435 校	89.9%

4 調査方法

調査票を用いたアンケート方式により実施した。調査対象校へ調査票を送付し、直接記入した調査票を同封の返信用封筒にて回収した。

- 調査業務委託先 株式会社サンブラッソ・エイティーブイ
- 調査票の発送 令和5年11月6日
- 回答期限 令和5年11月30日

5 研究顧問

- 秋田 敏博 氏（青森大学 社会学部 教授）
- 本間 維 氏（青森中央短期大学 食物栄養学科 講師）

第2章 調査結果

1 調査結果の見方

- ・グラフの中の「n=」は、設問に関する回答者を表している。
- ・結果数値（パーセント）は、小数第2位を四捨五入しており、合計が100%にならないこともある。

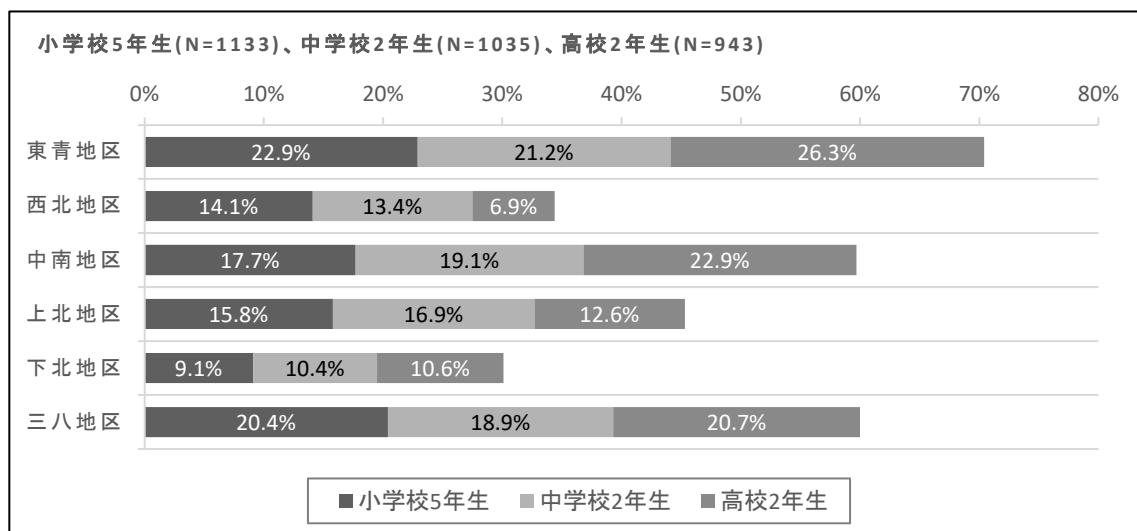
2 子どもの読書活動に関する状況調査

青森県内の小学校5年生（n=1133）、中学校2年生（n=1035）、高校2年生（n=943）より回答を得た結果である。なお、無回答、不明、該当しない設問の回答等は集計から除外したため、各グラフの回答者数と総数は一致しない場合がある。

（1）学校の所在地

質問1 あなたの通う学校がある市町村を教えてください。

※回答した市町村を県内6地区に分類

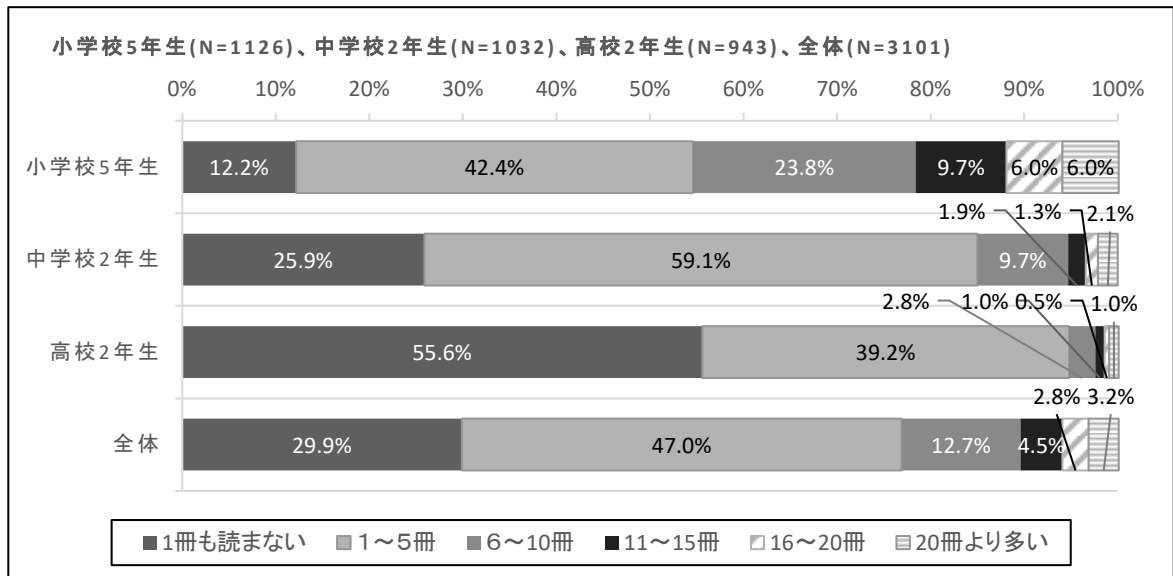


(2) 1ヶ月間の読書量

質問2 今年10月の1か月に本を読みましたか。

質問3 今年10月の1か月に本を何冊読みましたか。

※「1冊も読まない」の割合は質問2で「読まなかった」と回答した児童・生徒数を使用



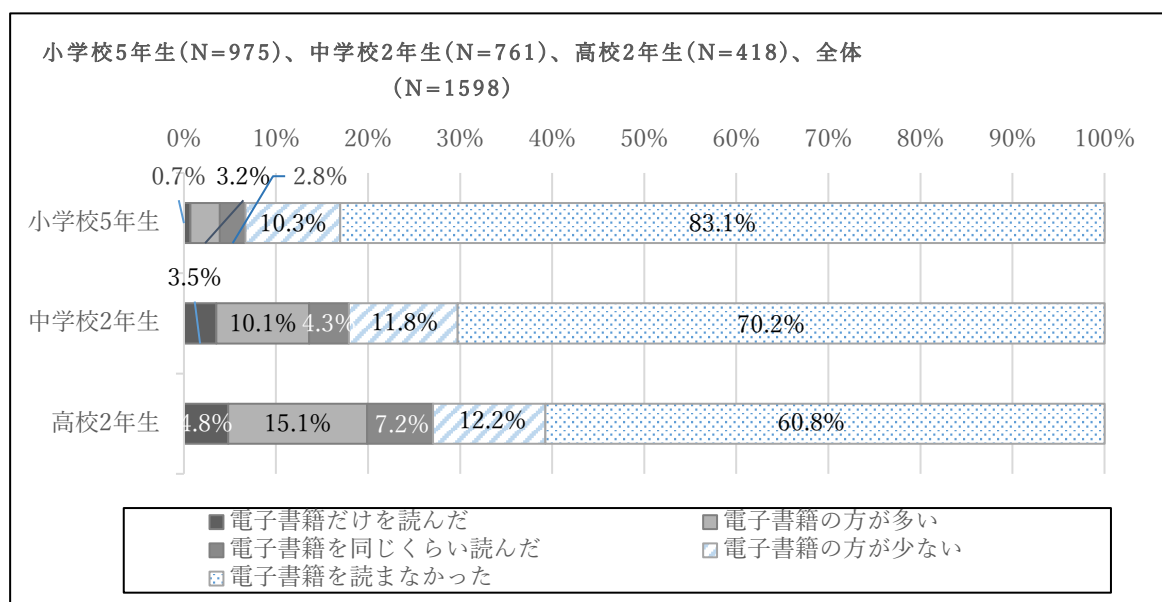
小中高と学校段階が進むにつれて「1冊も読まない」児童・生徒の割合が高くなり、高校2年生の半数以上で「1冊も読まない」と回答している。

(3) 電子書籍の読書状況

質問4 今年10月の1か月間電子書籍を読みましたか。

質問5 今年10月の1か月間、紙の本と比べて、スマートフォンやタブレット端末等で読むことのできる電子書籍をどのくらい読みましたか。

※質問2で「読んだ」と回答した児童・生徒数を使用

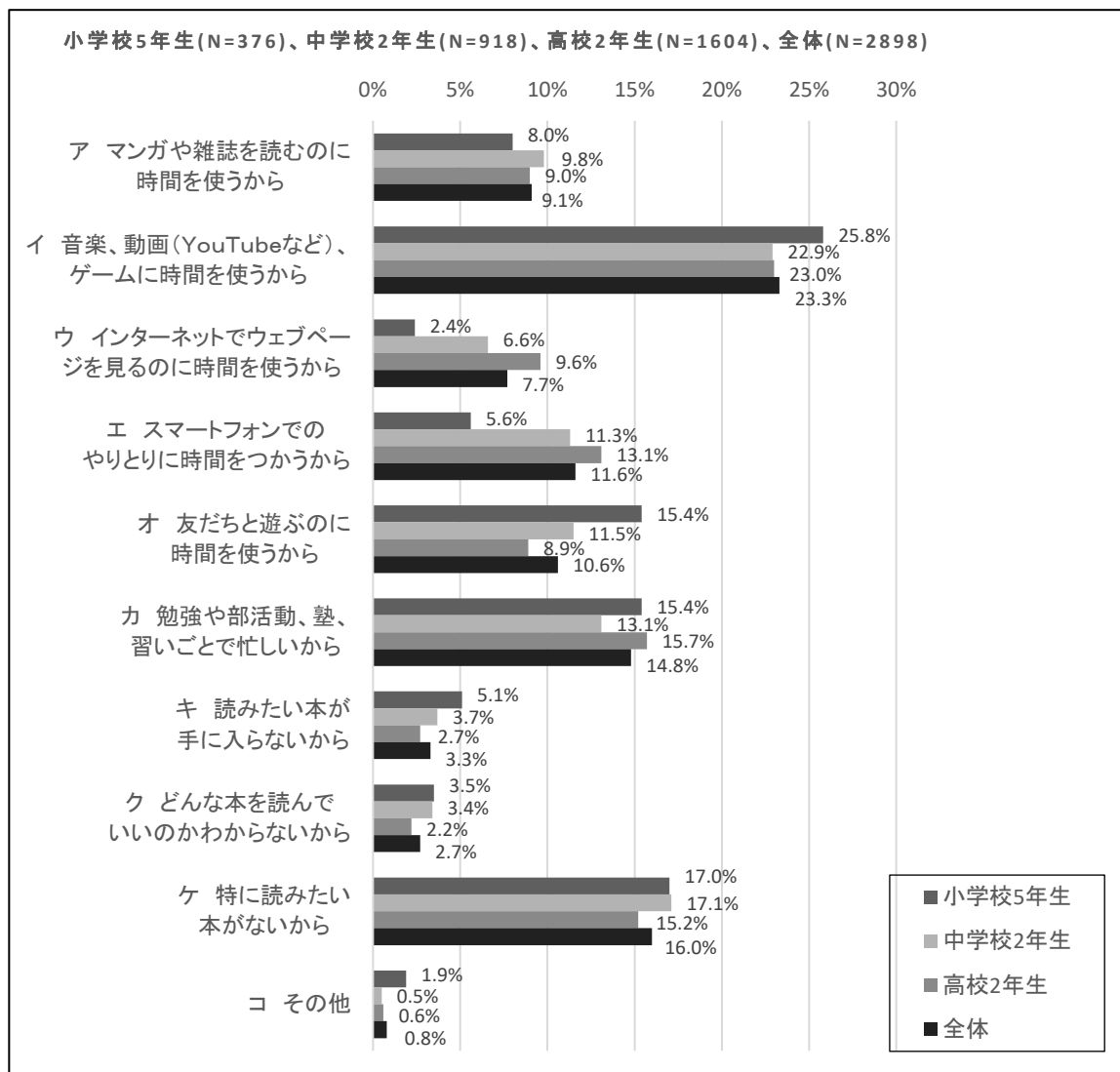


電子書籍の読者は、小中高と学校段階が進むにつれて増えているものの、高校2年生の約6割が「読まなかった」と回答している。

(4) 本を読まなかった理由（複数回答）

質問6 読まなかった理由を教えてください。

※質問2で「読まなかった」と回答した児童・生徒数を使用



	小学校5年生		中学校2年生		高校2年生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ア マンガや雑誌を読むのに時間をを使うから	30	8.0%	90	9.8%	145	9.0%
イ 音楽、動画(YouTubeなど)、ゲームに時間をを使うから	97	25.8%	210	22.9%	369	23.0%
ウ インターネットでウェブページを見るのに時間をを使うから	9	2.4%	61	6.6%	154	9.6%
エ スマートフォンでのやりとりに時間をつかうから	21	5.6%	104	11.3%	210	13.1%
オ 友達と遊ぶのに時間をを使うから	58	15.4%	106	11.5%	142	8.9%
カ 勉強や部活動、塾、習いごとで忙しいから	58	15.4%	120	13.1%	252	15.7%
キ 読みたい本が手に入らないから	19	5.1%	34	3.7%	43	2.7%
ク どんな本を読んでいいのかわからないから	13	3.5%	31	3.4%	35	2.2%
ケ 特に読みたい本がないから	64	17.0%	157	17.1%	244	15.2%
コ その他	7	1.9%	5	0.5%	10	0.6%

[小学校5年生] (n=7)

- ・読むのがめんどくさいから
- ・教科書を読んでいるから
- ・スマートフォンを持っていない
- ・あまり本にきょうみがないから
- ・学校の本を読むカードをなくしたから
- ・ぐあいがわるかったから
- ・ねたいからつかれている

[中学校2年生] (n=5)

- ・家の手伝い
- ・おもしろくないから
- ・読んでいたがマンガだから
- ・読むのが面倒くさいから
- ・本屋がどこにあるか忘れていたから

[高校2年生] (n=10)

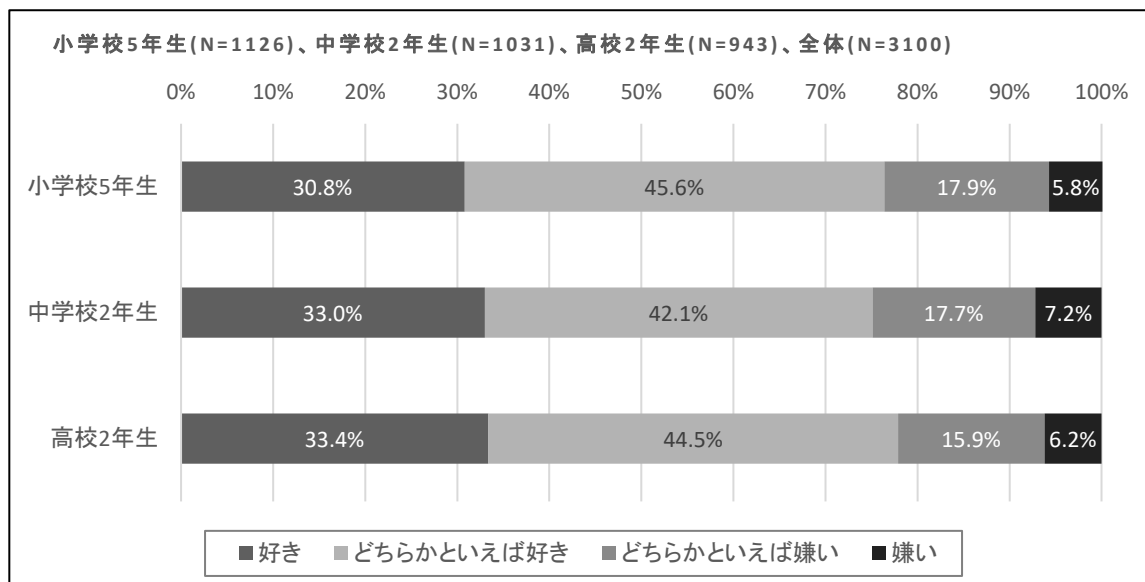
- ・読む時間がないから
- ・本を面白いと思わん
- ・読書が苦手だから
- ・読む時間があったら寝たい

- ・読みたいのに時間がない
- ・学校の読書時間に簿記の小テストがあるから
- ・めんどうくさいから
- ・読む気分じゃなかったから
- ・授業で習った源氏物語のマンガを読んでいるから
- ・本じゃなくて、新聞を読むから

読まなかった理由としては、すべての校種で「音楽、動画、ゲームに時間を使うから」が最も多く、次いで「特に読みたい本がないから」が多くなっている。

(5) 読書への評価

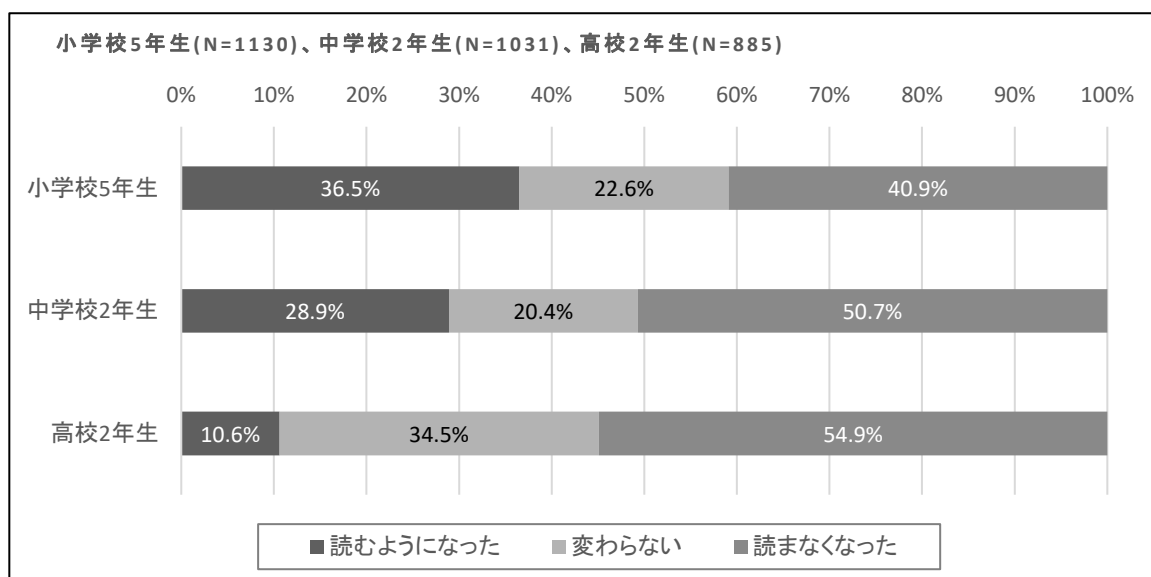
質問 7 本を読むことが好きですか。



読書への評価はすべての校種でほぼ同じ傾向を示しており、「好き」、「どちらかといえば好き」を足した割合が約75%となっている。

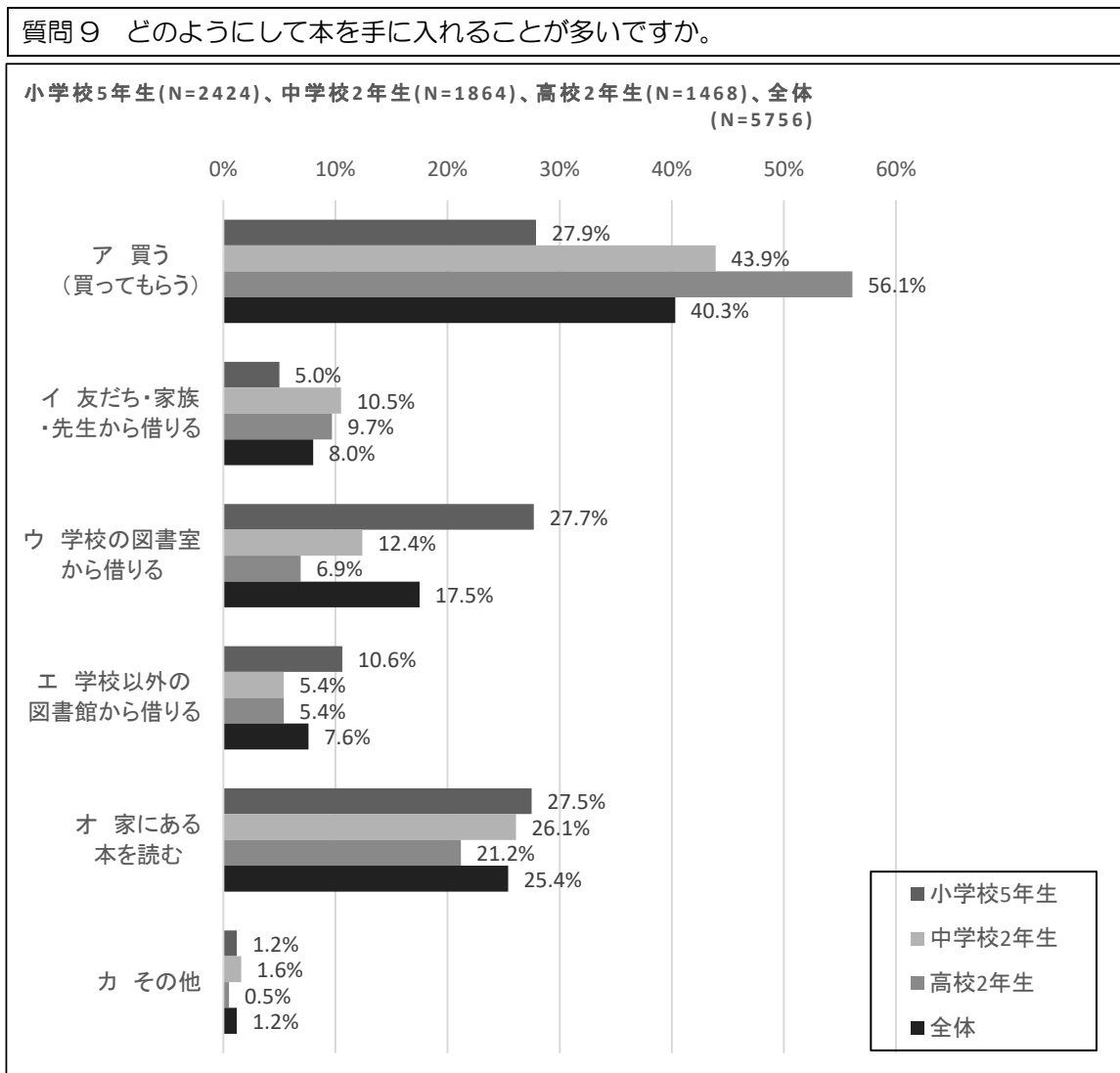
(6) 昨年と比較した読書頻度

質問 8 昨年と比べて本を読むようになりましたか。



昨年と比べた読書の頻度は、小中高と学校段階が進むにつれて低下する傾向が見られる。

(7) 本の入手方法（複数回答）



	小学校5年生		中学校2年生		高校2年生	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ア 買う(買ってもらう)	676	27.9%	819	43.9%	824	56.1%
イ 友だち・家族・先生から借りる	122	5.0%	196	10.5%	143	9.7%
ウ 学校の図書室から借りる	672	27.7%	232	12.4%	102	6.9%
エ 学校以外の図書館から借りる	258	10.6%	101	5.4%	80	5.4%
オ 家にある本を読む	667	27.5%	486	26.1%	311	21.2%
カ その他	29	1.2%	30	1.6%	8	0.5%

[小学校5年生] (n=29)
 ・教室の本を読む(13) ・本屋で読めるような本を読む ・しりあいの本やが届けてくれる
 ・おばあちゃんにもらう(2) ・しんせきからもらう ・もらう ・電子書籍で見る(2)
 ・スマホでさがす ・でんししょせきでかりる ・タブレット(チャレンジタッチ)で借りる。
 ・オススメのを教えてもらう ・借りない ・じぶんで買う ・買わない ・わからない

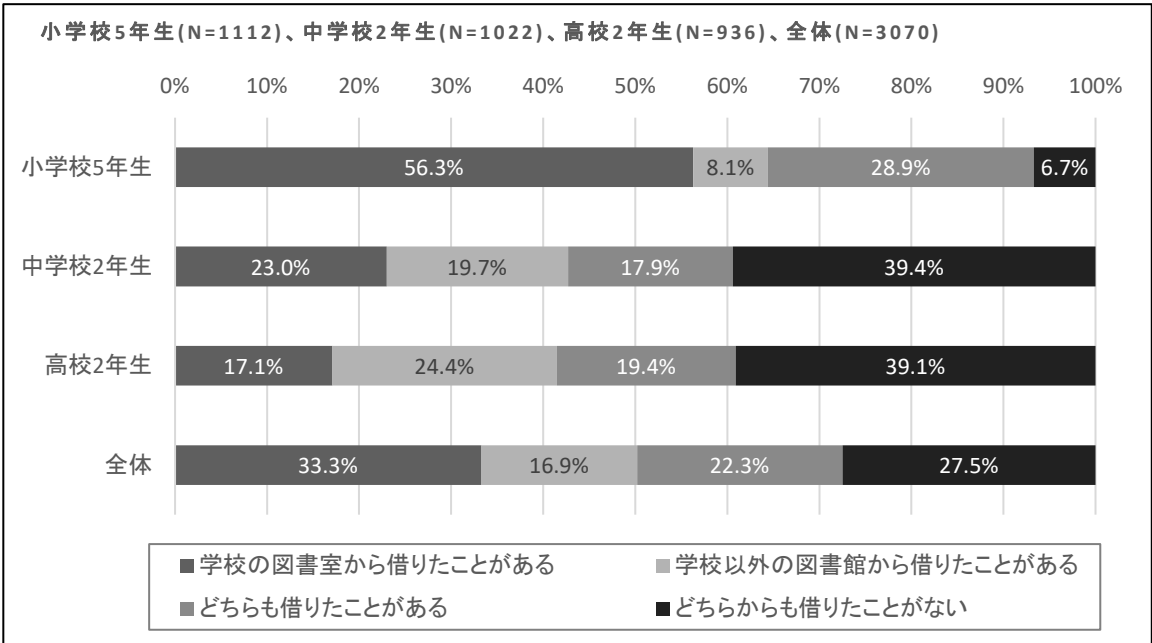
[中学校2年生] (n=36)
 ・手に入れない(4) ・買わない(2) ・読まない(3) ・インターネット(5) ・教室にある本(4)
 ・電子書籍(2) ・タブレット ・学校の電子書籍(4) ・学校のタブレット ・小説家になろう
 ・かぞくからもらう ・手に入らない ・電子書籍の無料キャンペーン

[高校2年生] (n=12)
 ・手に入れようとしなない ・電子書籍 ・図書館で読む ・レンタル ・無料のものを読む
 ・青空文庫・ネットで注文する ・ネット

本の入手方法はすべての校種で「買う（買ってもらう）」が最も多く、「学校の図書室から借りる」は小学校5年生で約28%だが高校2年生では約7%と減少している。

(8) 各種図書館から本を借りたことがあるか

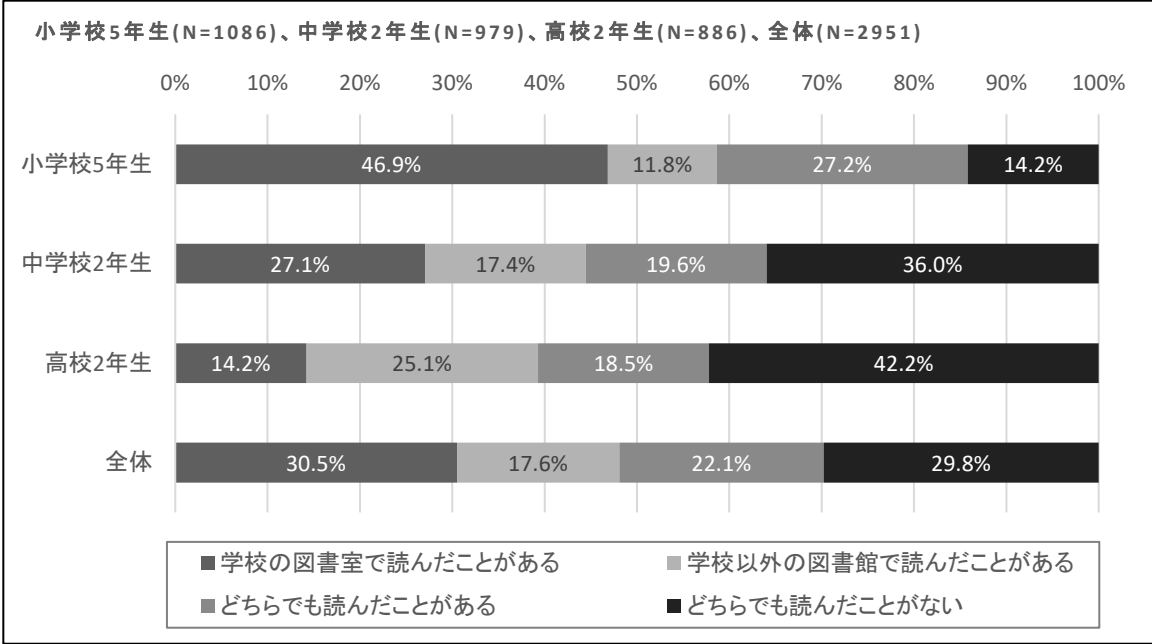
質問 10 学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館から本を借りたことがありますか。



小学校5年生では「本を借りたことがない」生徒は約7%であるが、中学校2年生・高校2年生では約40%の生徒が「本を借りたことがない」と回答している。

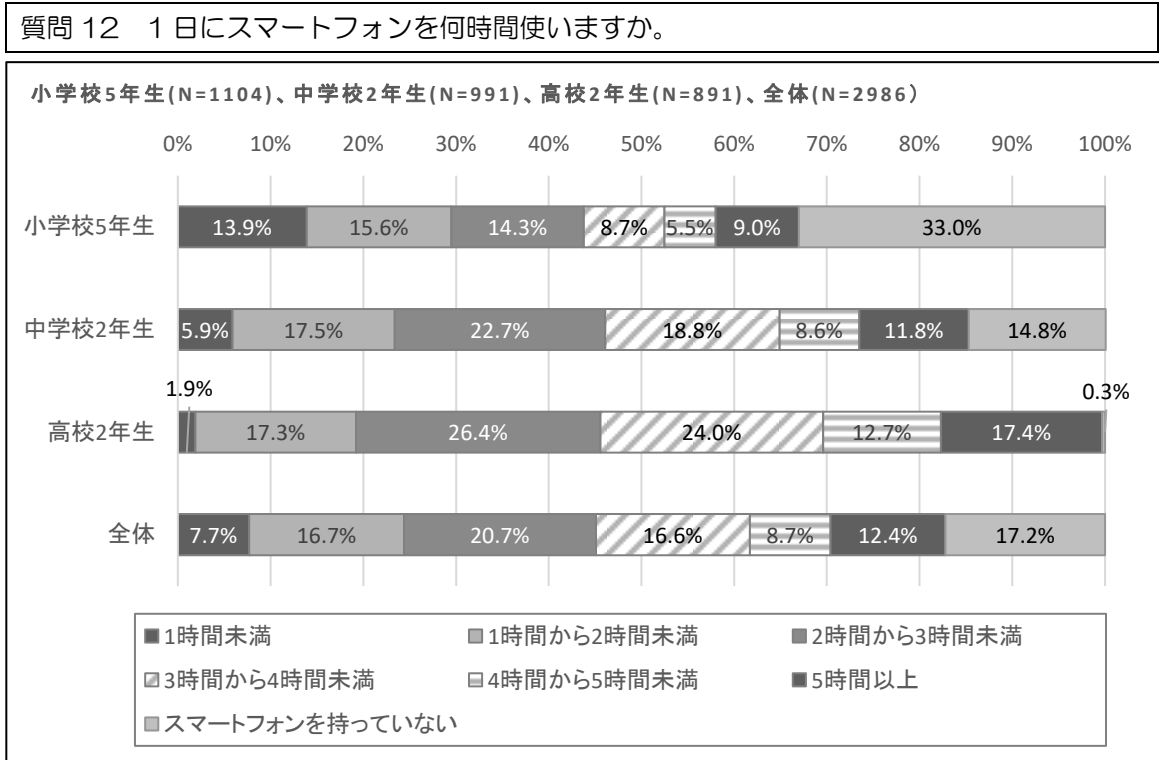
(9) 各種図書館で本を閲覧したことがあるか

質問 11 学校の授業以外で、学校の図書室や学校以外の図書館で本を読んだことがありますか。



小学校5年生では「本を閲覧したことがない」生徒は約14%であるが、中学校2年生・高校2年生では約40%の生徒が「本を閲覧したことがない」と回答している。

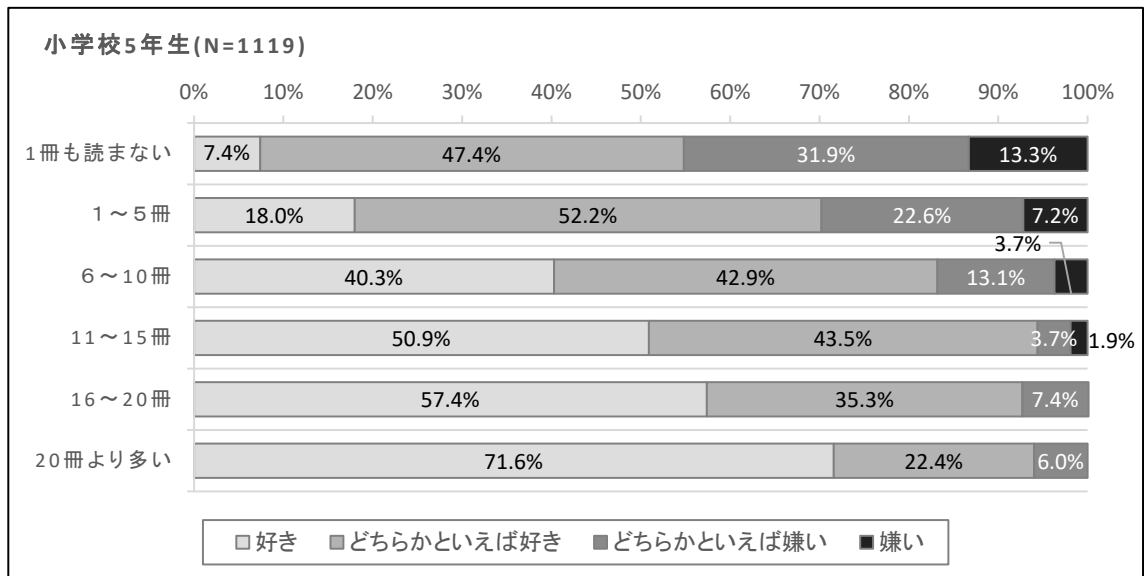
(10) スマートフォンの使用状況



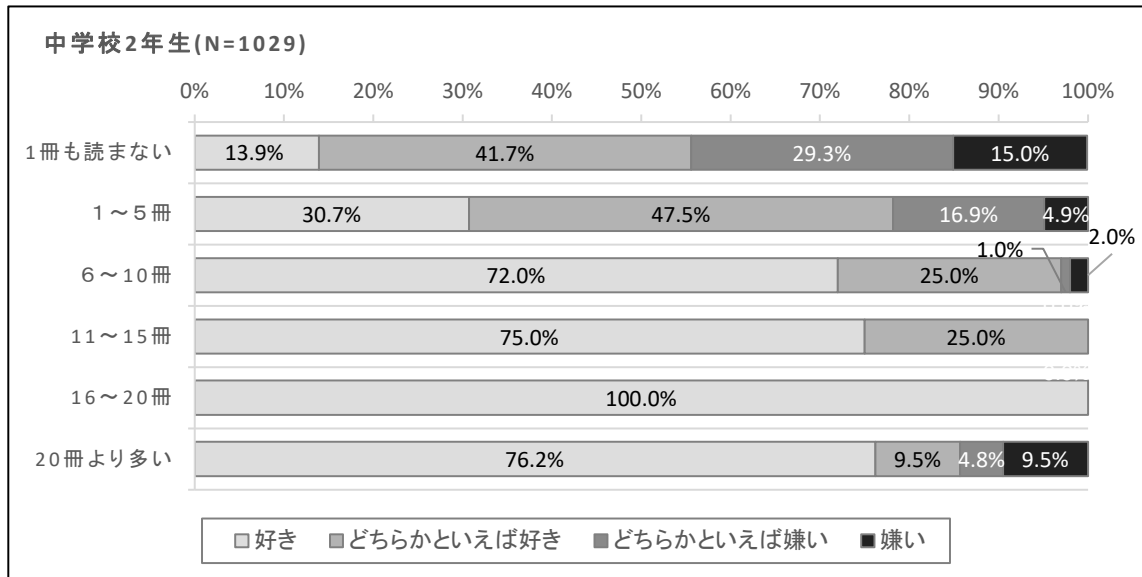
スマートフォンの使用では、小中高と学校段階が進むにつれて所持率が高くなるとともに、長時間の使用が増える傾向にある。

(11) クロス集計1 「1ヶ月の読書量」×「読書への評価」

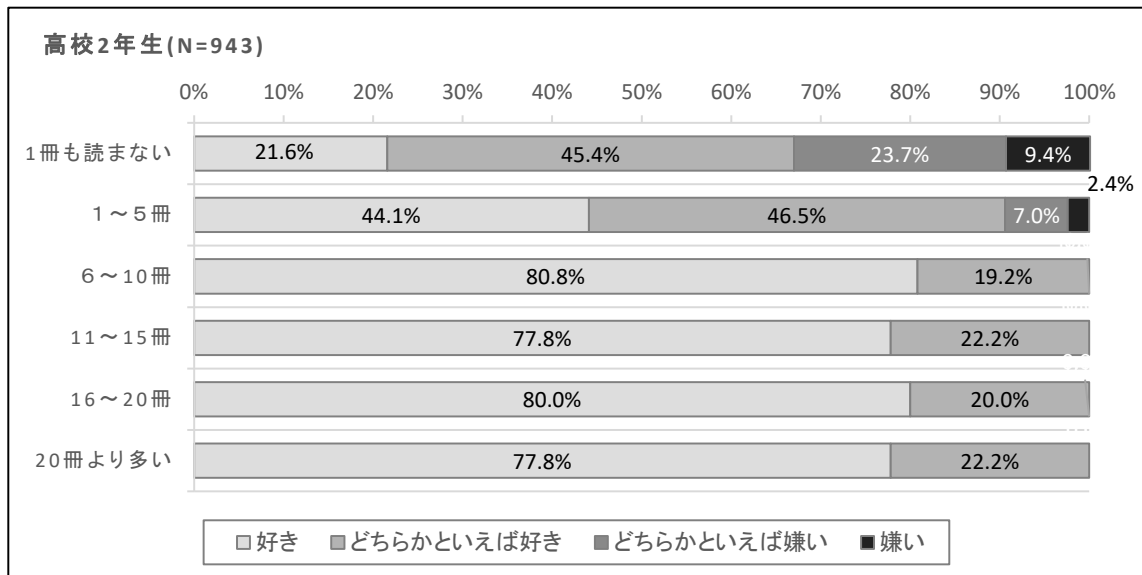
① 小学校5年生



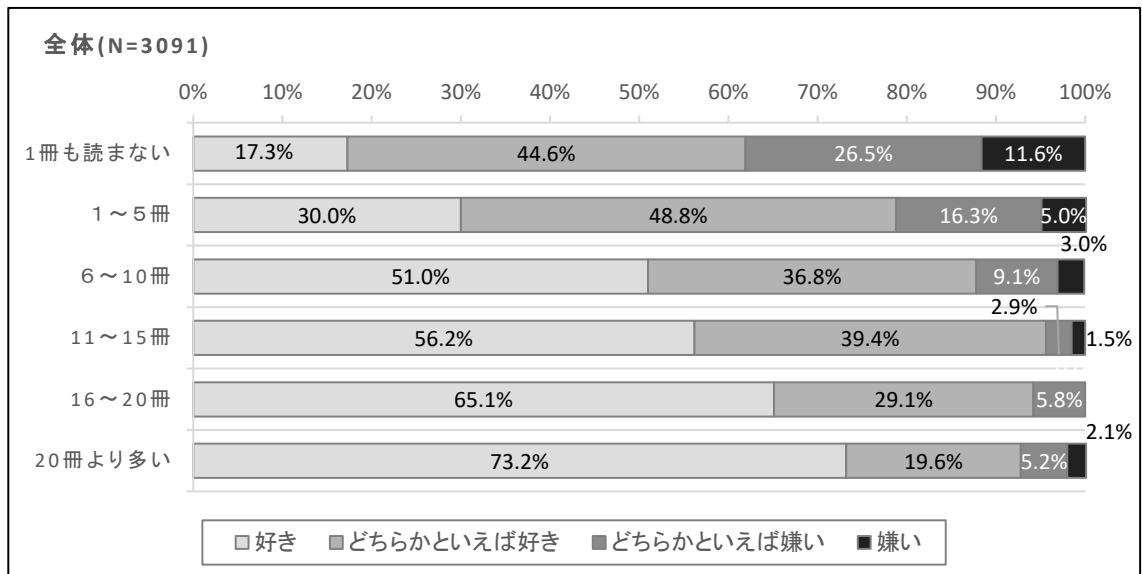
② 中学校2年生



③ 高校2年生

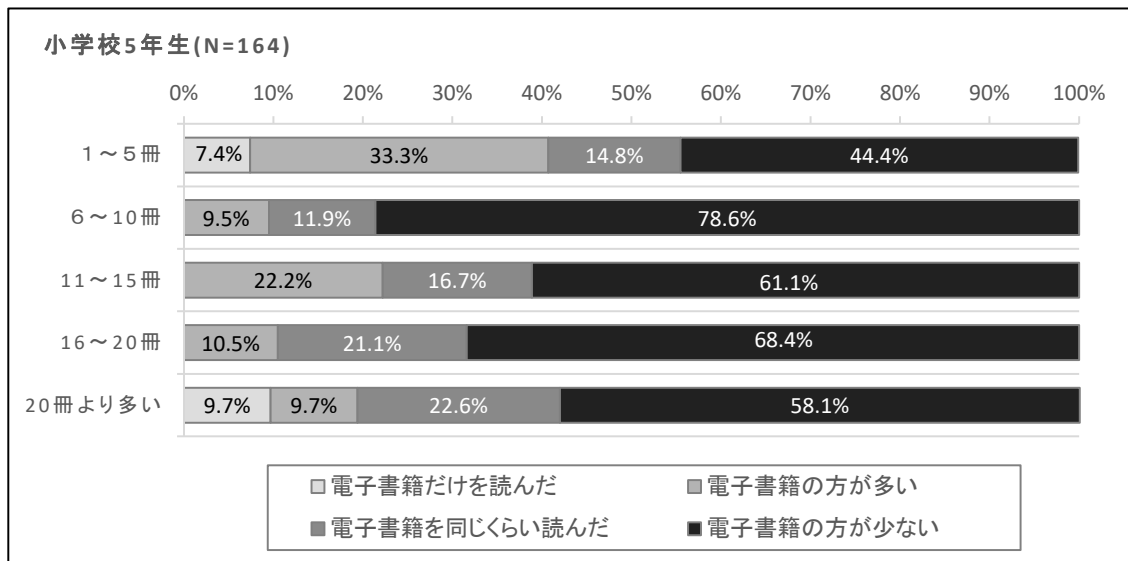


④ 全体

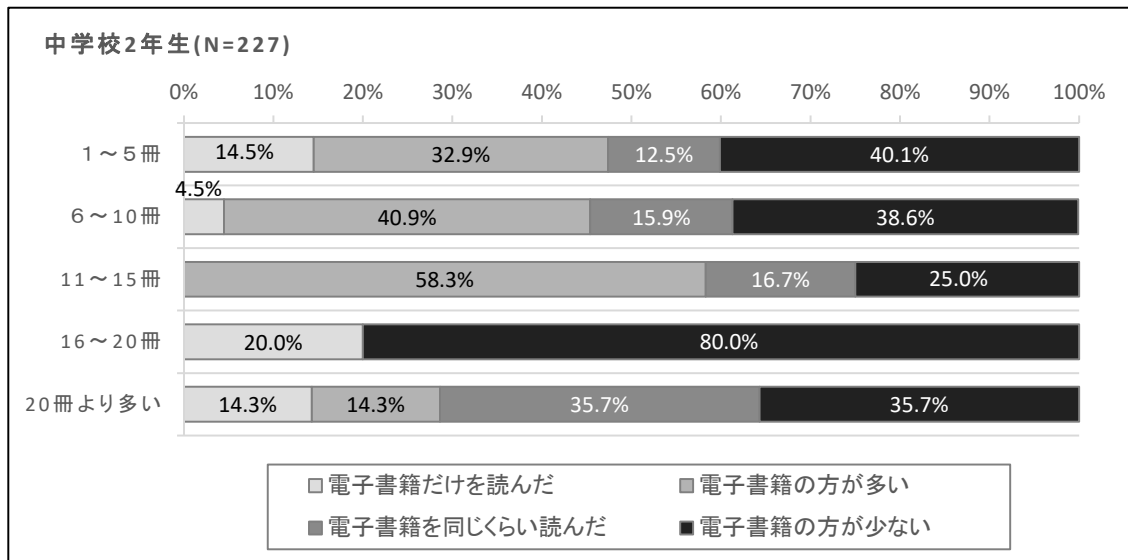


(12) クロス集計2 「1ヶ月の読書量」×「電子書籍の読書状況」

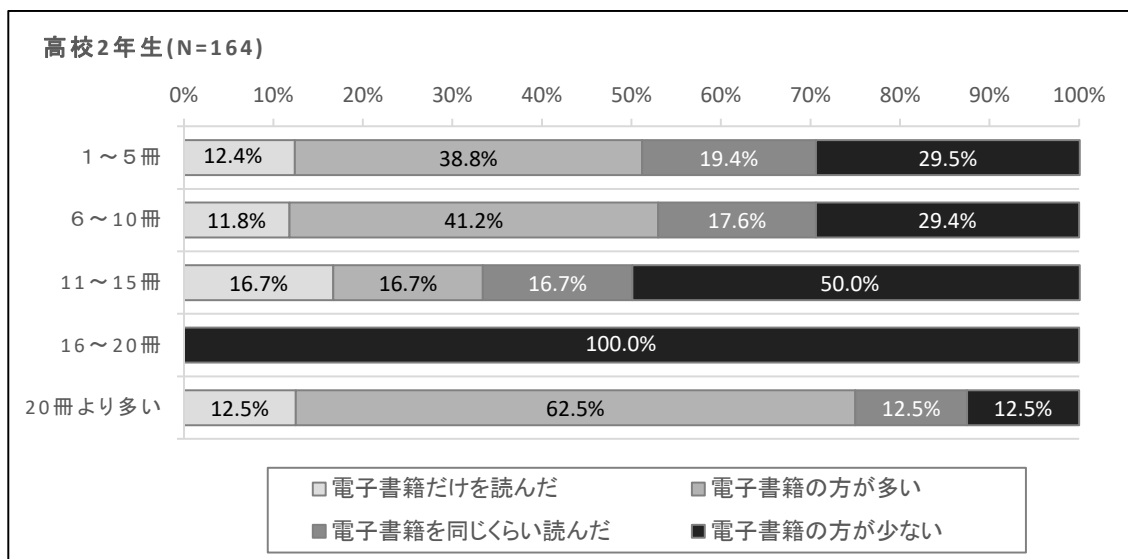
① 小学校5年生



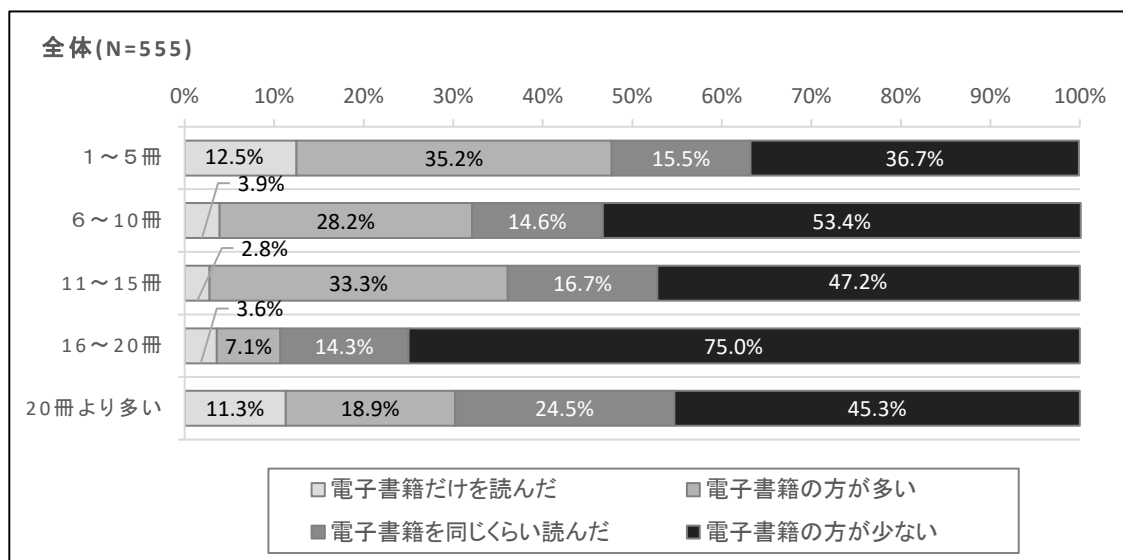
② 中学校2年生



③ 高校2年生

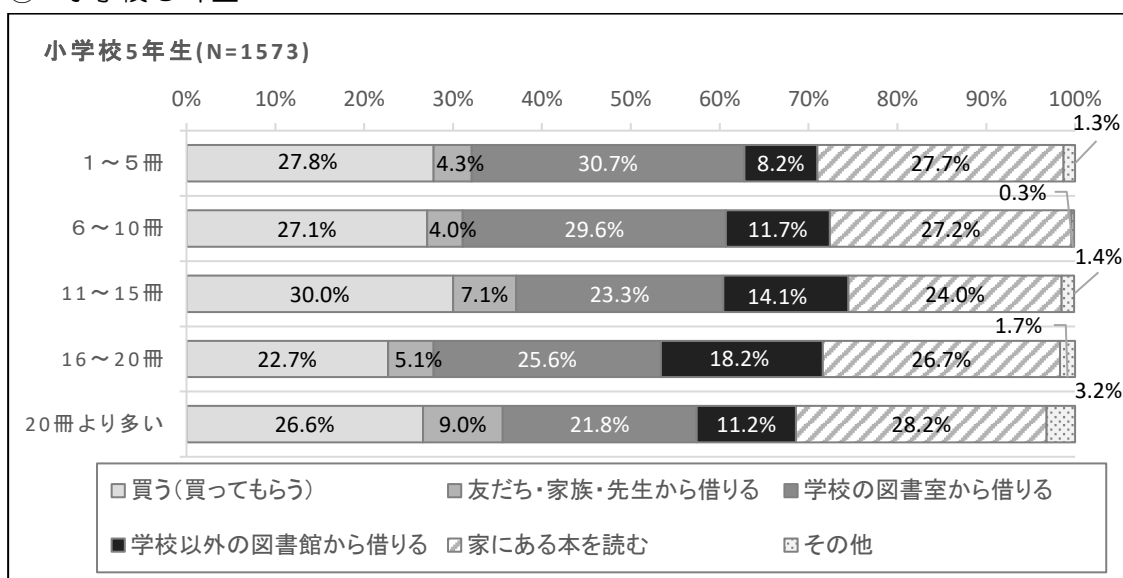


④ 全体

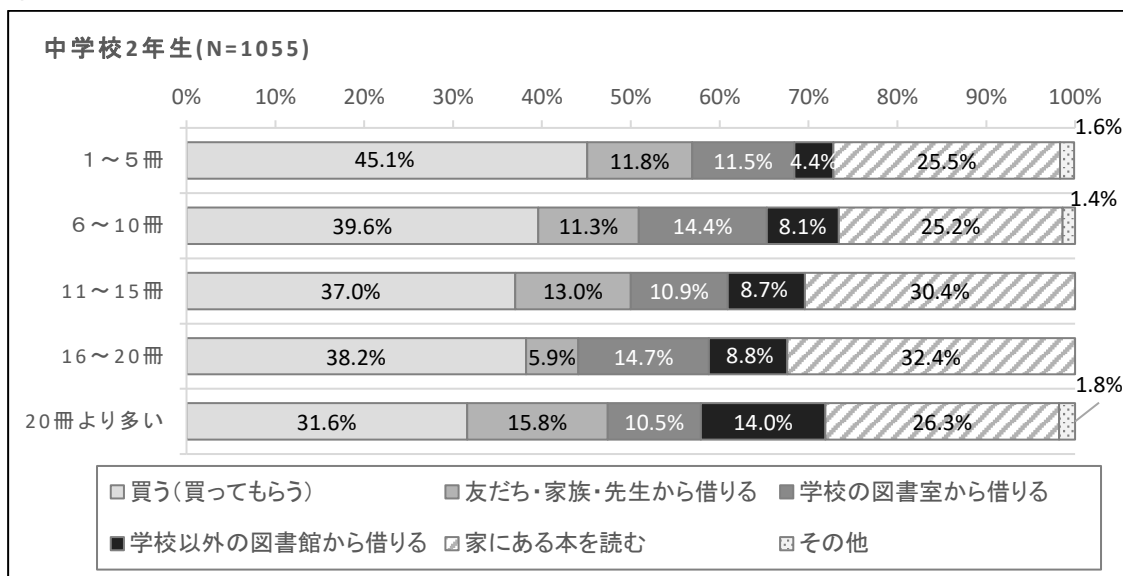


(13) クロス集計3 「1ヶ月の読書量」×「本の入手方法」

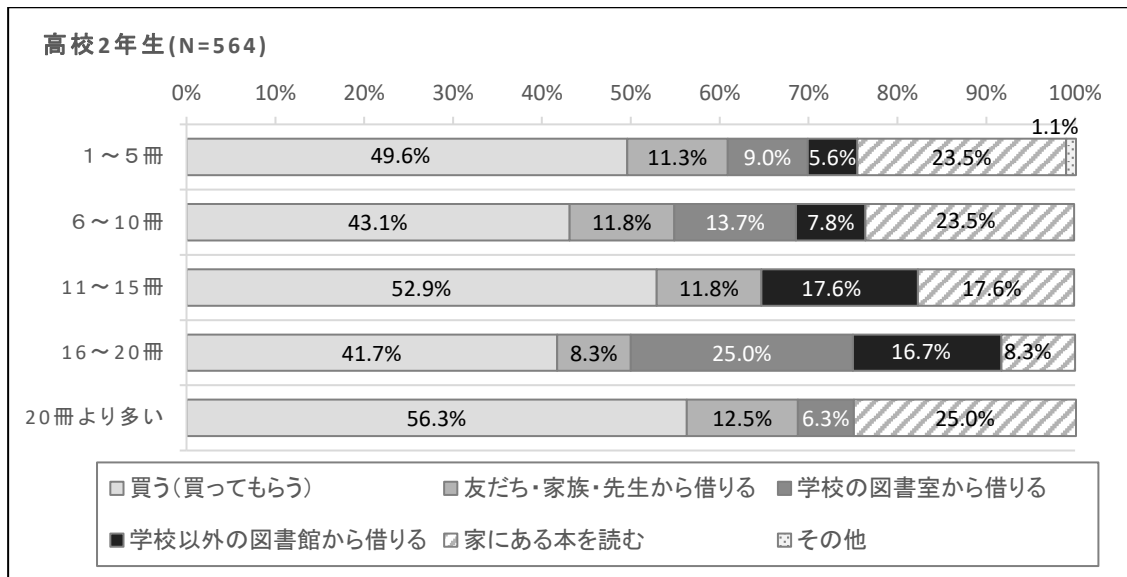
① 小学校5年生



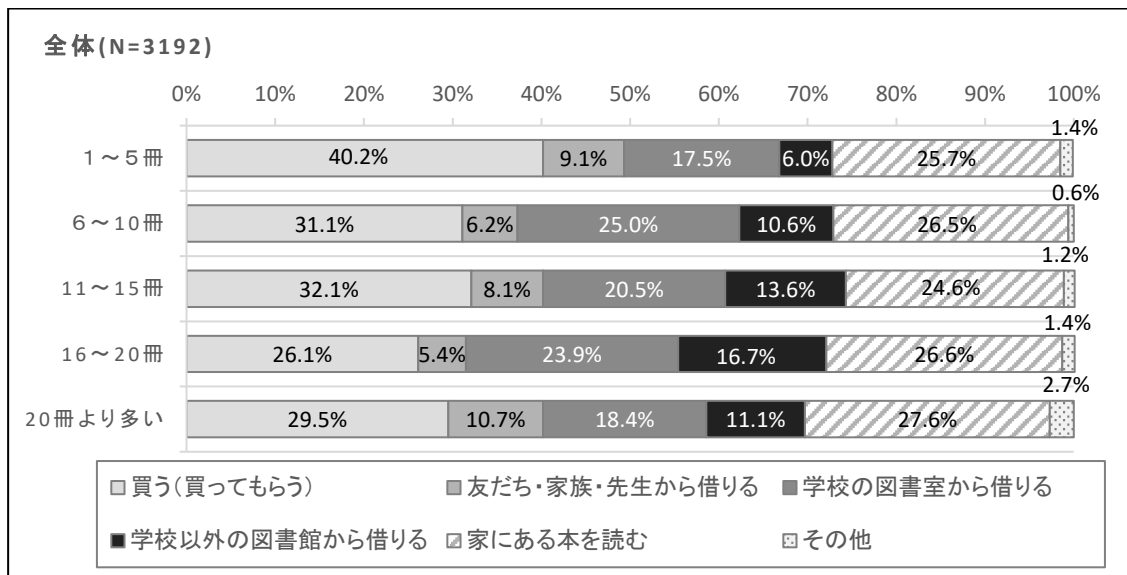
② 中学校2年生



③ 高校2年生

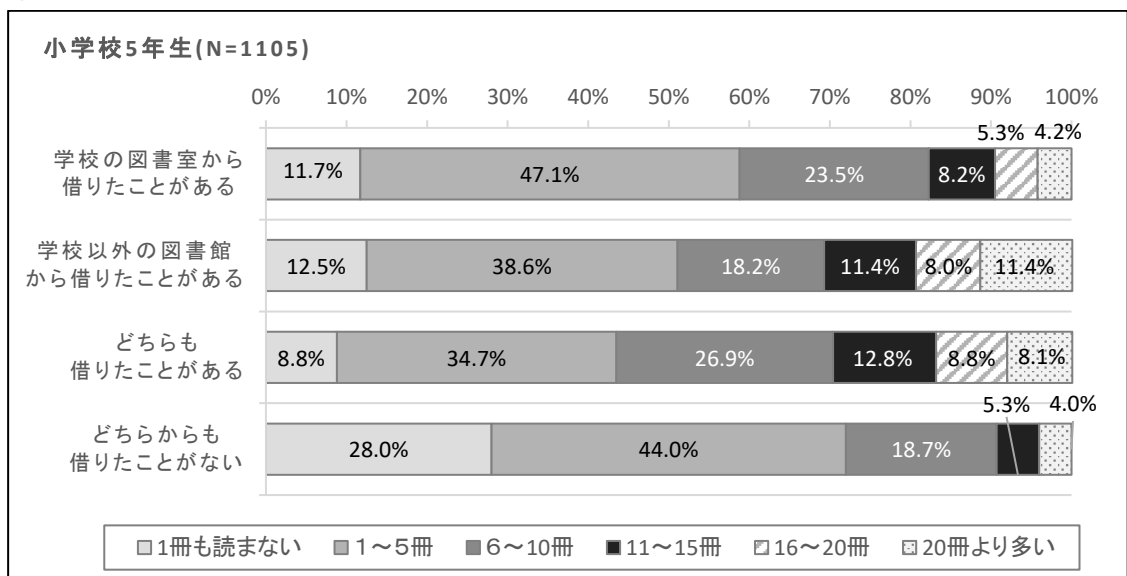


④ 全体

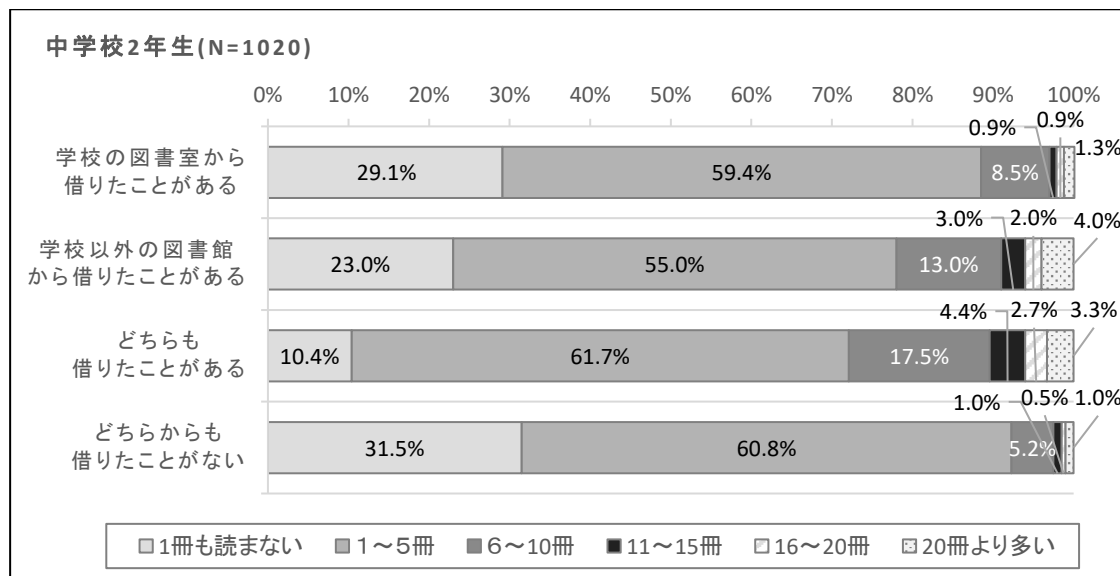


(14) クロス集計4 「各種図書館から本を借りた経験」×「1ヶ月の読書量」

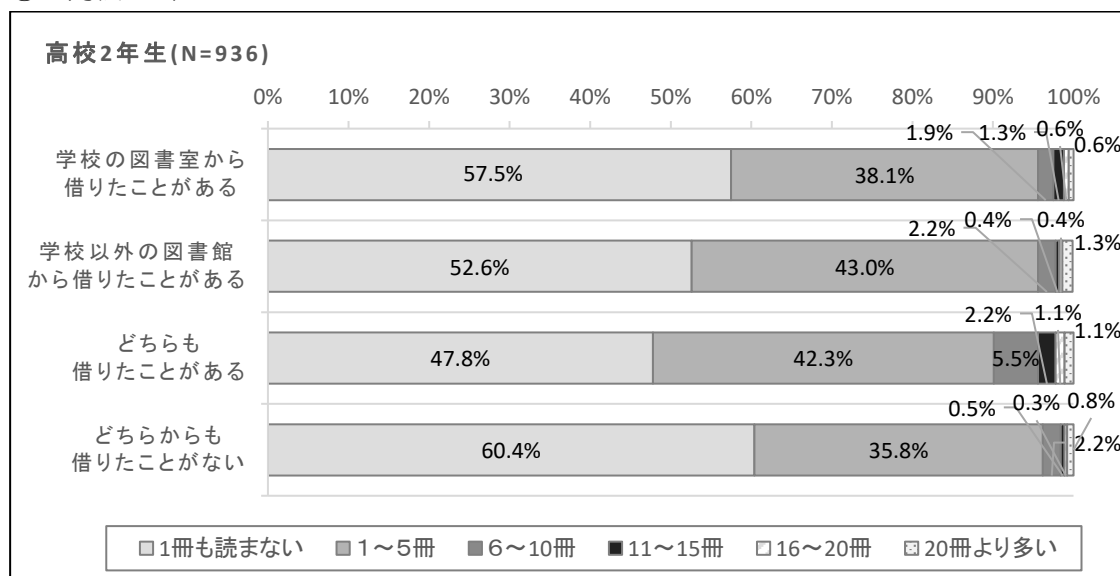
① 小学校5年生



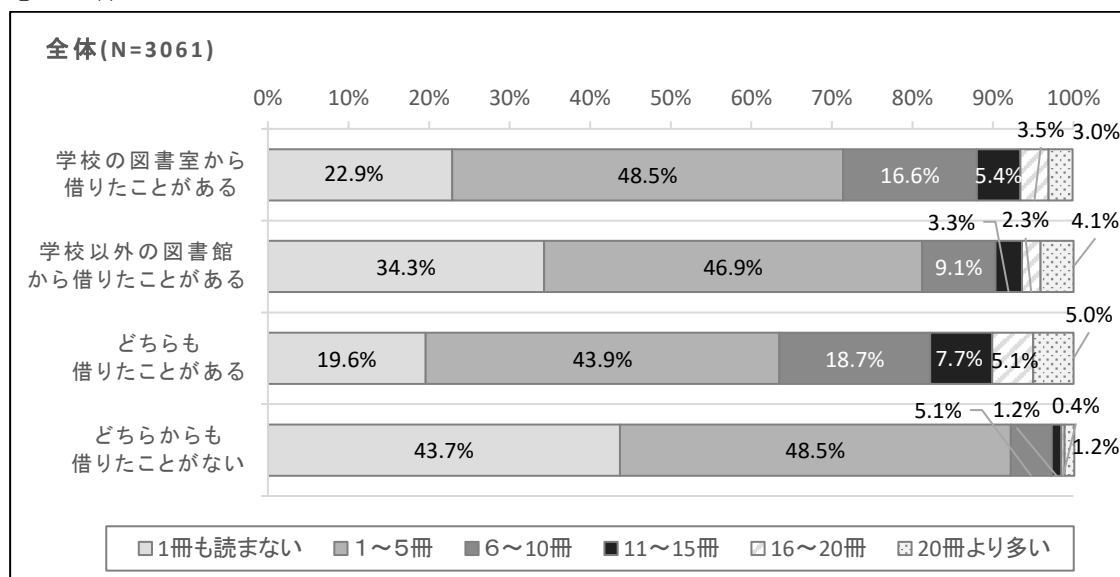
② 中学校2年生



③ 高校2年生

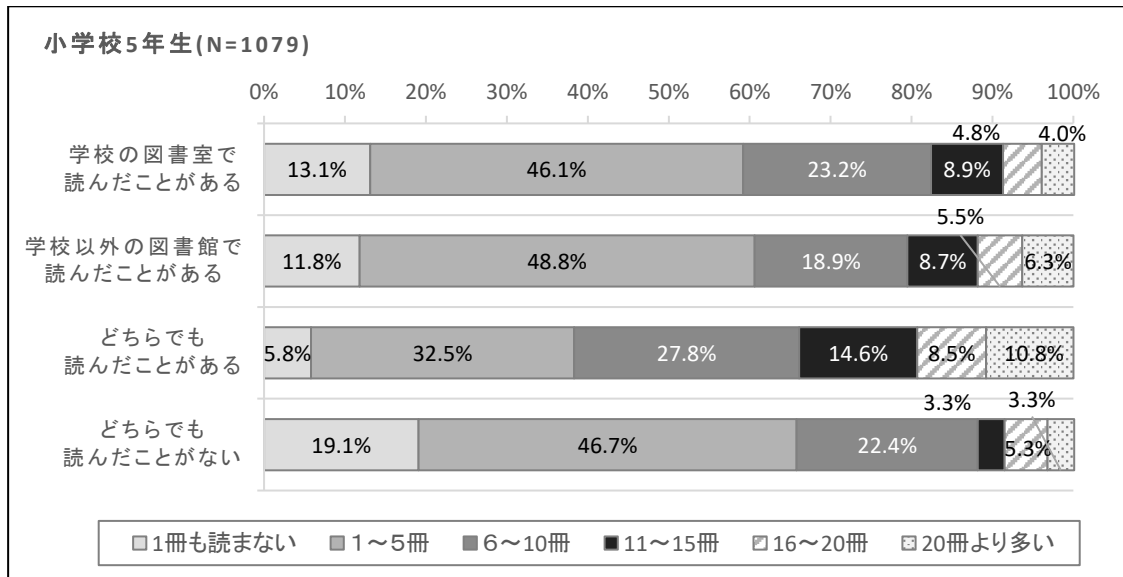


④ 全体

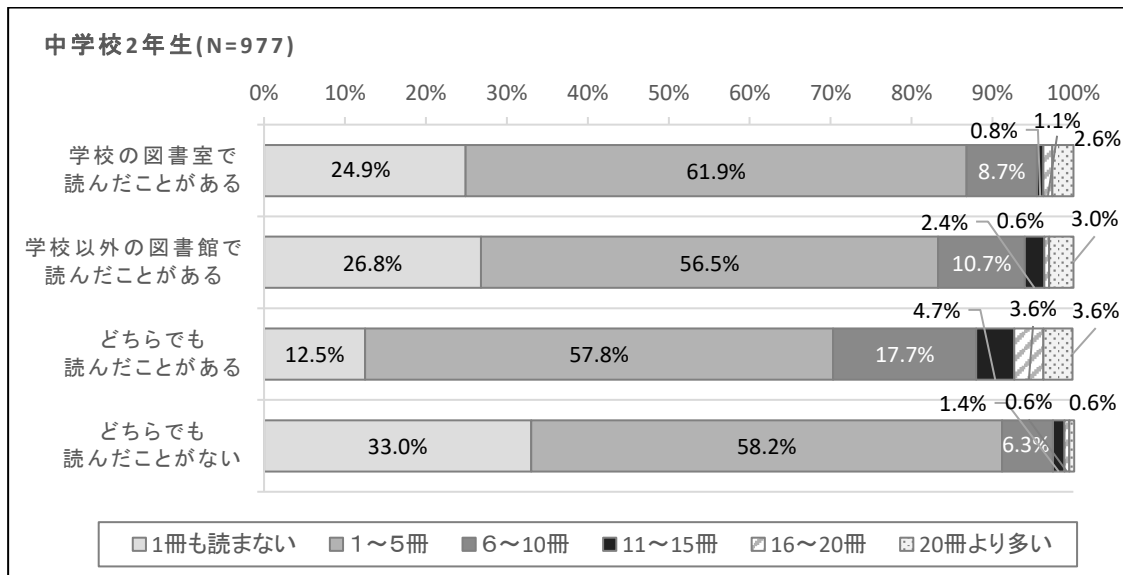


(15) クロス集計5 「各種図書館で本を閲覧した経験」×「1ヶ月の読書量」

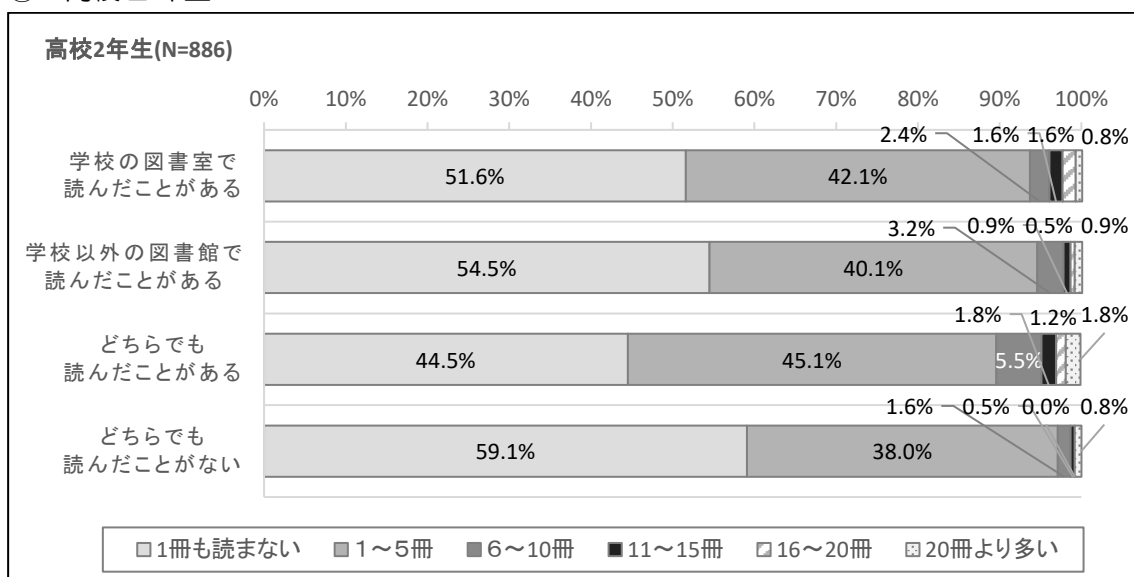
① 小学校5年生



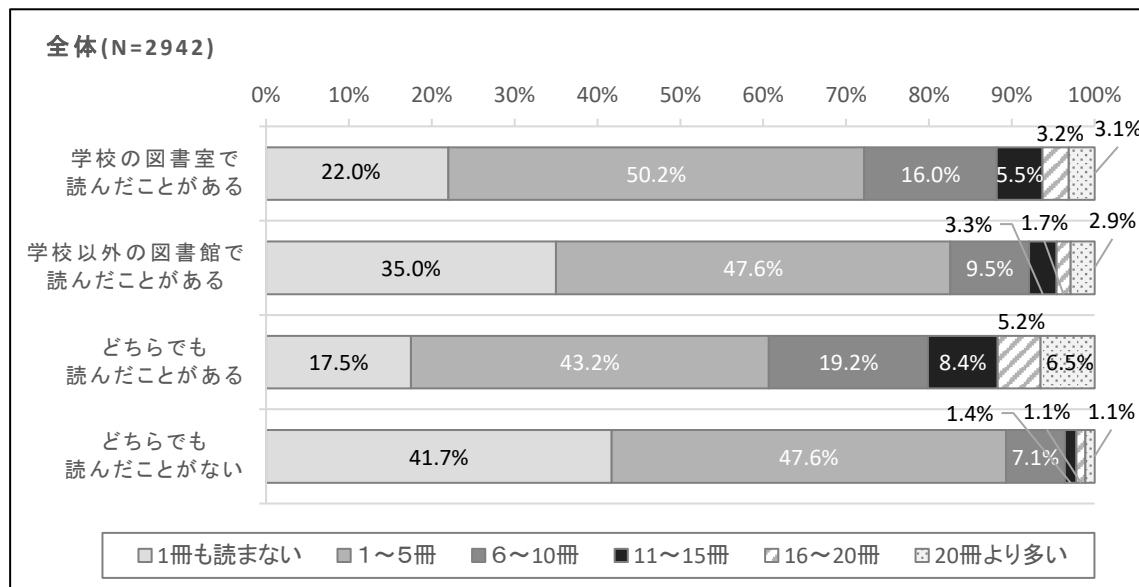
② 中学校2年生



③ 高校2年生



④ 全体



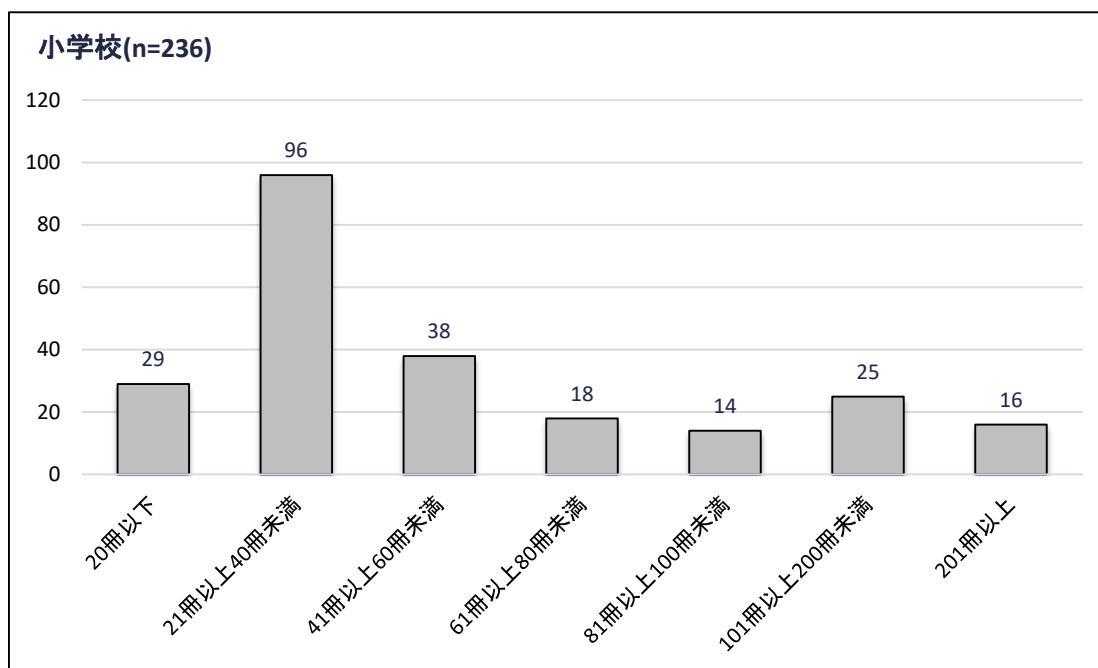
3 子どもの読書活動推進に関する学校状況調査

青森県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校合わせて484校を対象とし、小学校237校、中学校129校、高等学校48校、特別支援学校21校の計435校から回答を得た結果である。なお、無回答、不明等の回答、分析数は集計から除外したため、各学校の総数とは一致しない場合がある。

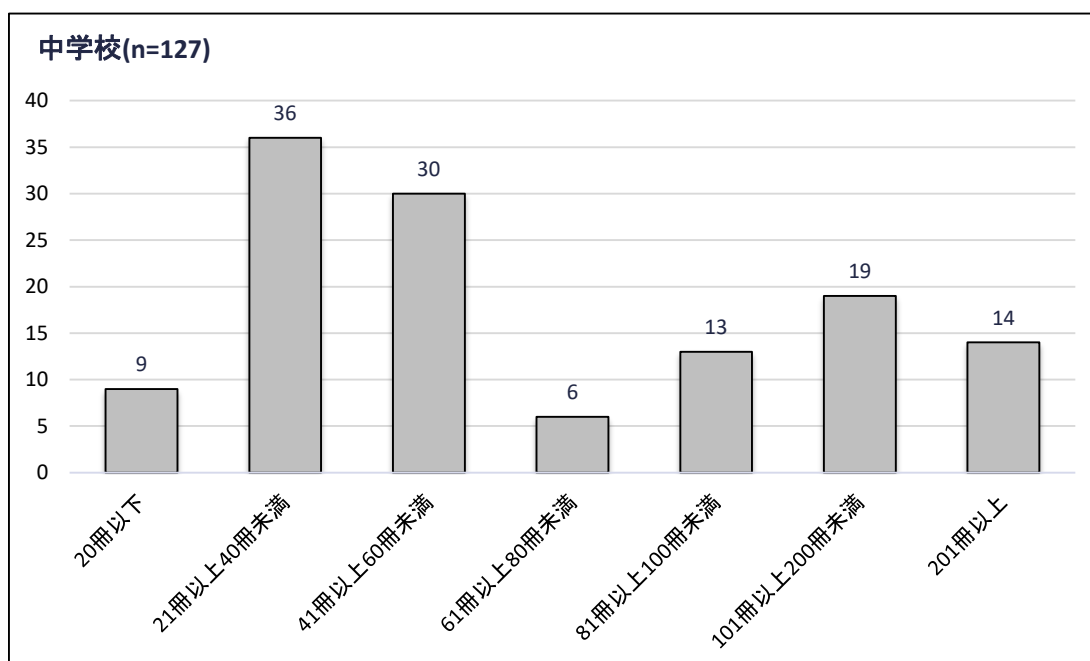
(1) 1人あたりの蔵書冊数

設問6 「学校図書館の蔵書数」(令和5年5月1日現在)を設問4「児童・生徒数」(令和5年5月1日現在)で割り、1人あたりの蔵書数を算定した。100冊未満は20冊単位とし、それ以上は100冊単位としグラフ化した。

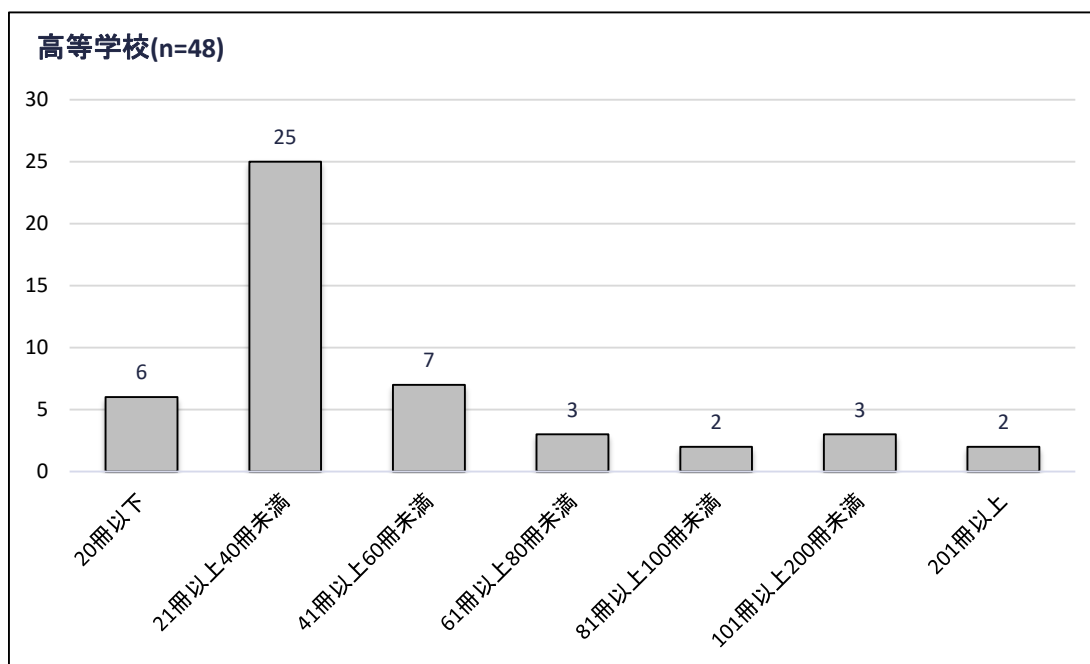
① 小学校



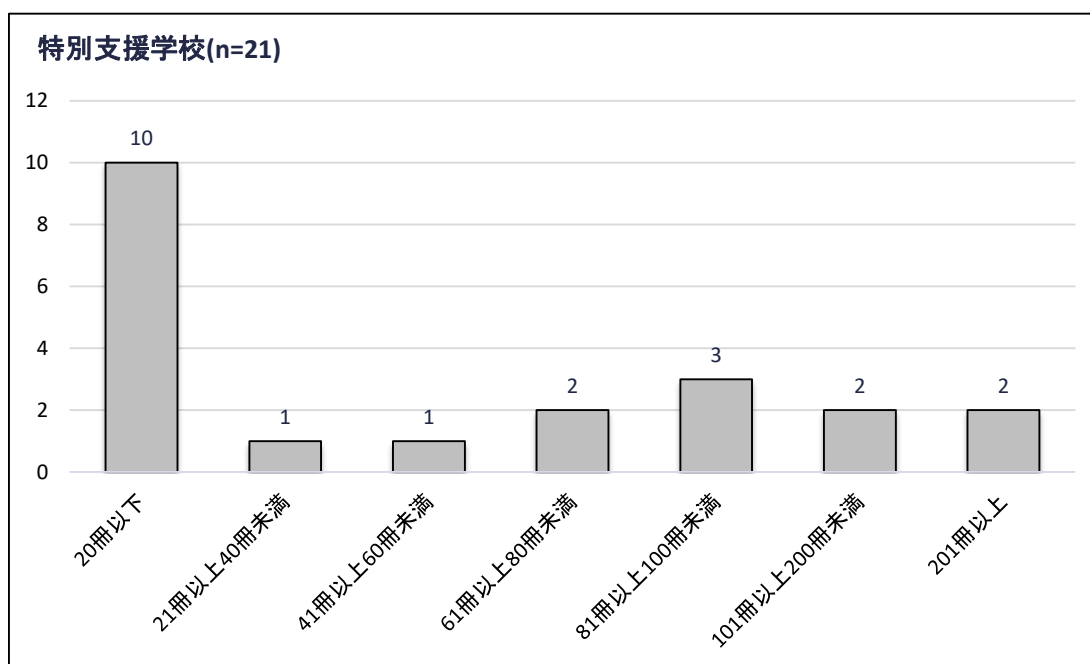
② 中学校



③ 高等学校



④ 特別支援学校



(2) 学校図書館図書標準達成状況

公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準として、平成5年3月に文部科学省により定められた「学校図書館図書標準」の達成状況を整理した。

なお、各学校の達成状況は、次の表を用いて判定している。

ア 小学校

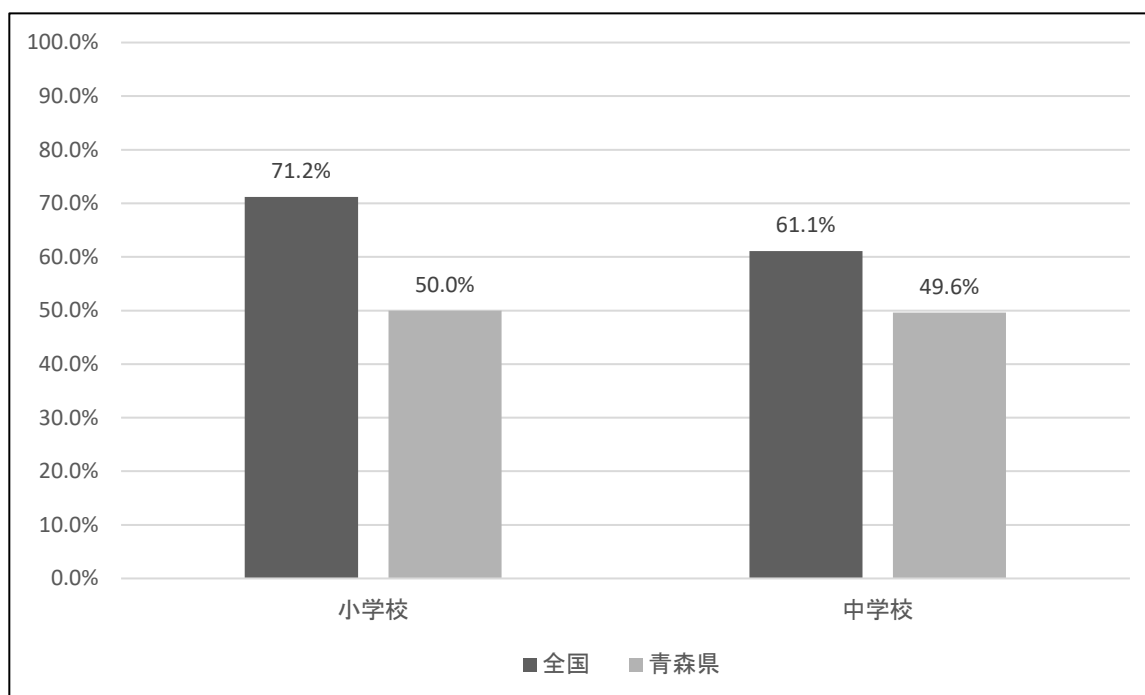
学級数	蔵書冊数
1	2,400
2	3,000
3～6	$3,000 + 520 \times (\text{学級数} - 2)$
7～12	$5,080 + 480 \times (\text{学級数} - 6)$
13～18	$7,960 + 400 \times (\text{学級数} - 12)$
19～30	$10,360 + 200 \times (\text{学級数} - 18)$
31～	$12,760 + 120 \times (\text{学級数} - 30)$

イ 中学校

学級数	蔵書冊数
1～2	4,800
3～6	$4,800 + 640 \times (\text{学級数} - 2)$
7～12	$7,360 + 560 \times (\text{学級数} - 6)$
13～18	$10,720 + 480 \times (\text{学級数} - 12)$
19～30	$13,600 + 320 \times (\text{学級数} - 18)$
31～	$17,440 + 160 \times (\text{学級数} - 30)$

※全国の数値は「令和2年度 学校図書館の現状に関する調査」の結果によるもの

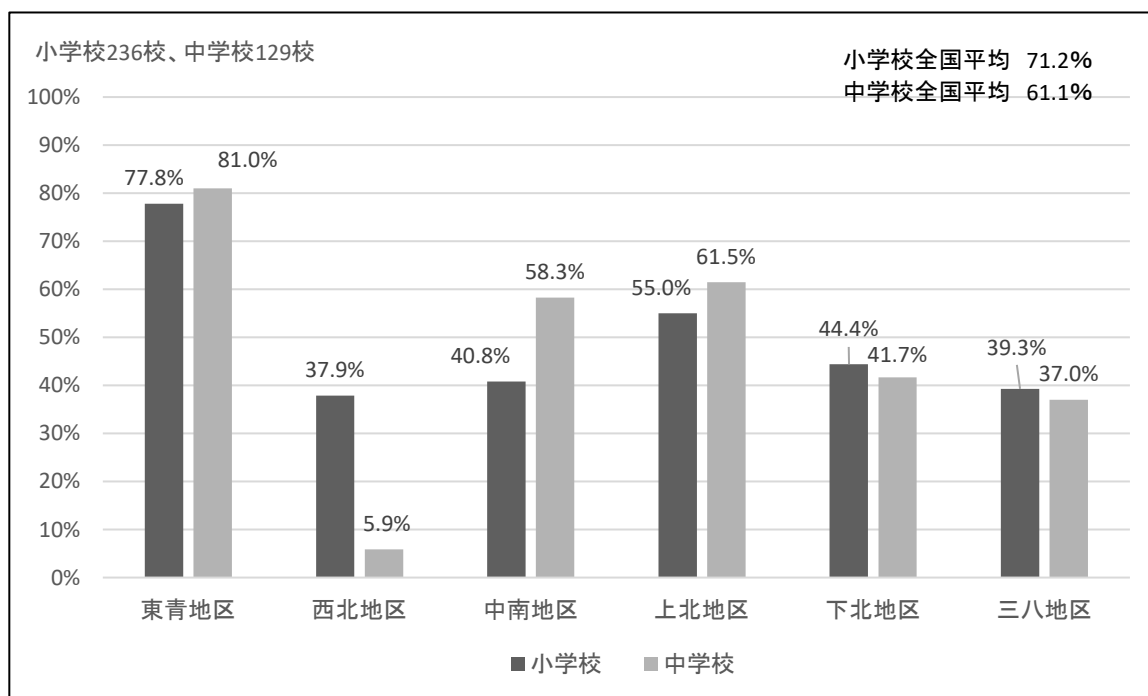
① 小中学校（公立）と全国の比較



	青森県		達成率	
	学校数	達成数	全国	青森県
小学校	236	118	71.2%	50.0%
中学校	127	63	61.1%	49.6%

② 県内6地区の達成状況

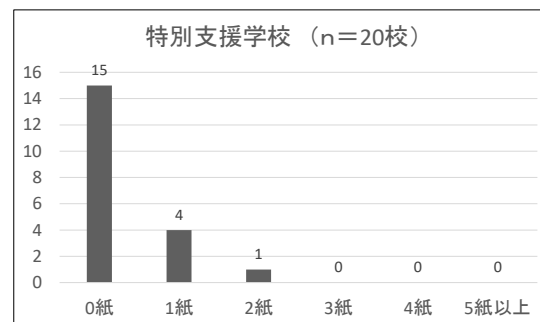
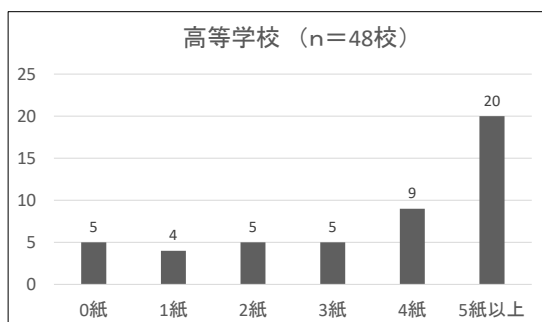
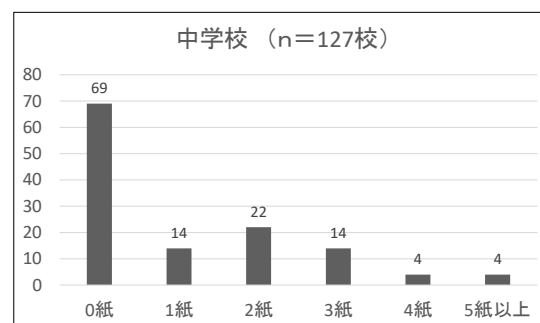
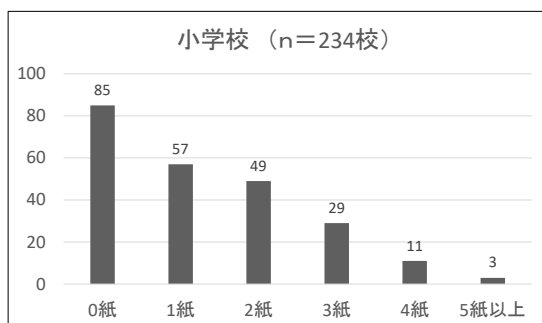
※達成率は、達成した学校数を回答のあった学校数で割って算出した。



全国平均を上回っているのは、小学校では「東青地区」のみで、中学校では「東青地区」及び「上北地区」である。

(3) 学校図書館の新聞の購読数

設問7 「学校図書館の新聞の購読数」(令和5年5月1日現在)を校種ごとに整理した。

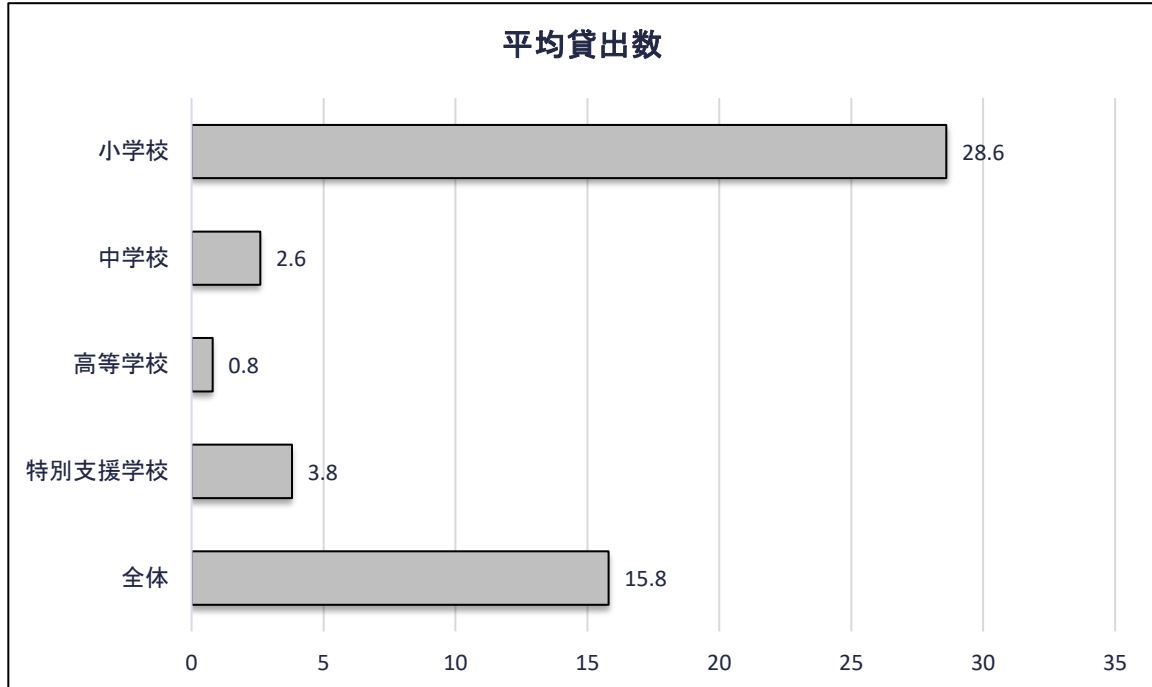


小学校、中学校、特別支援学校では0紙が多く、高等学校では5紙以上が多い。

(4) 学校図書館の1人あたり年間貸出冊数

設問8「学校図書館の年間貸出冊数」(令和4年度の実績)から校種ごとに総数を算定し、設問4「児童・生徒数」(令和5年5月1日現在)の総数で除し、1人あたりの年間貸出冊数を求めた。

小学校 (n=225)、中学校 (n=124)、高等学校 (n=46)、特別支援学校 (n=20)

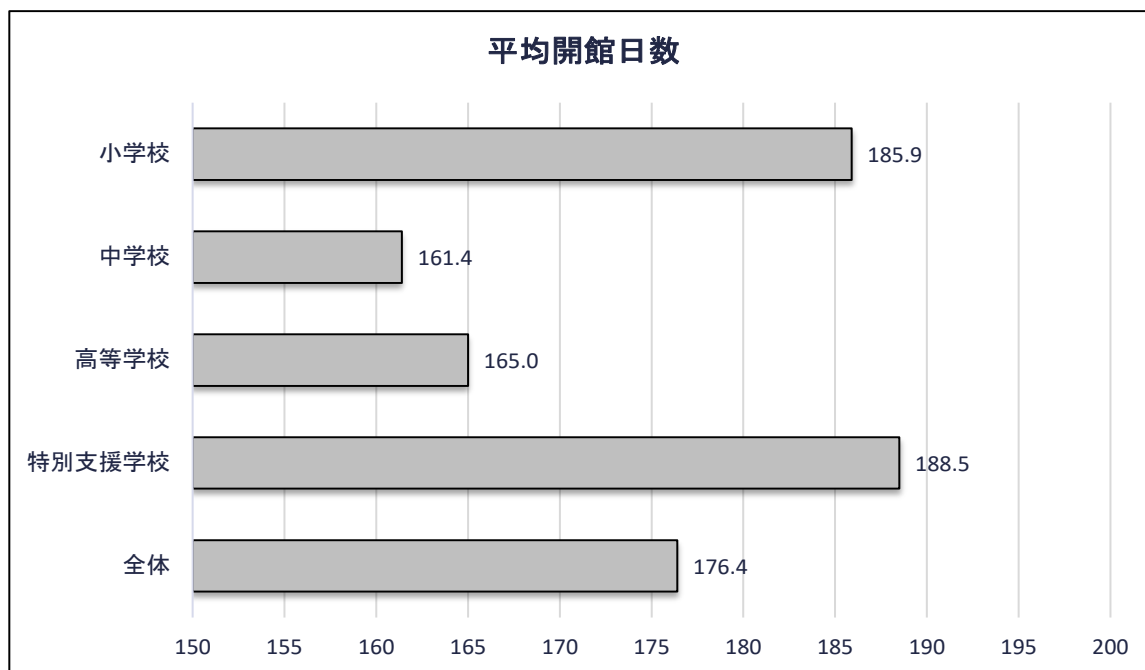


年間の平均貸出数は、小学校で1人あたり約29冊となっており、他の校種と比較して多くなっている。

(5) 学校図書館の年間開館日数

設問 9「学校図書館の年間開館日数」(令和4年度の実績)から校種ごとに総数を算定し、校種ごとに回答のあった学校数で除し年間の平均開館日数を算出した。

小学校 (n=235)、中学校 (n=127)、高等学校 (n=47)、特別支援学校 (n=19)

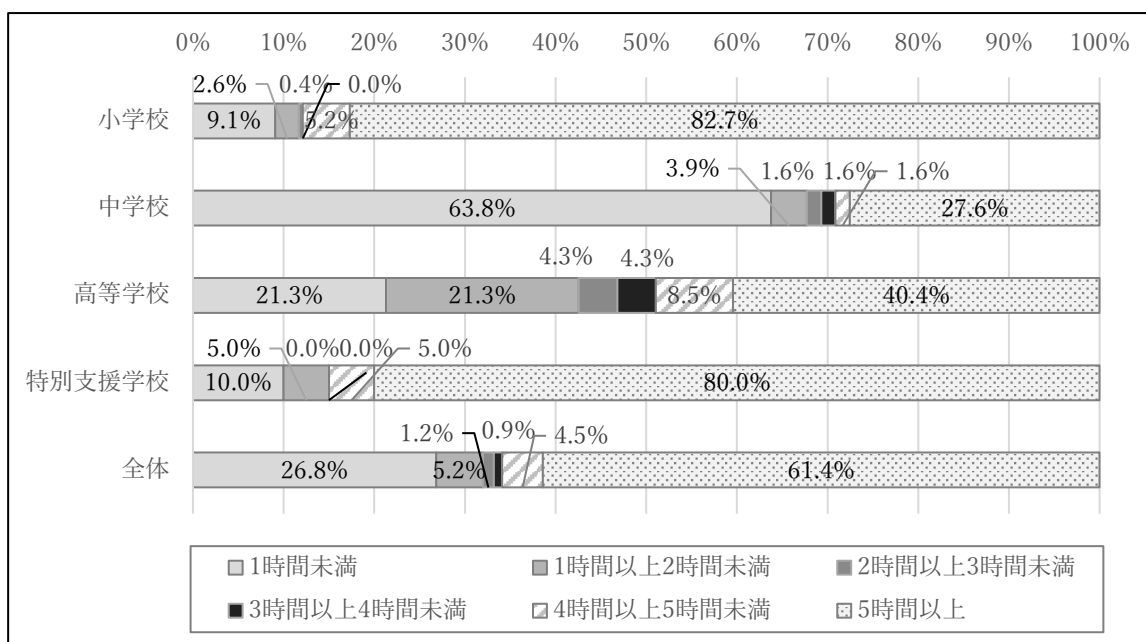


小学校及び特別支援学校では180~190日の間となっているが、中学校及び高等学校は160~170日の間となっている。

(6) 学校図書館の通常の開館時間

設問 10「学校図書館の通常の開館時間」(授業等を含め、生徒が利用できる時間に限る)の回答を校種ごとに整理した。

小学校 (n=231)、中学校 (n=127)、高等学校 (n=47)、特別支援学校 (n=20)



小学校、高等学校及び特別支援学校では「5時間以上」が最も多く、中学校では「1時間未満」が最も多くなっている。

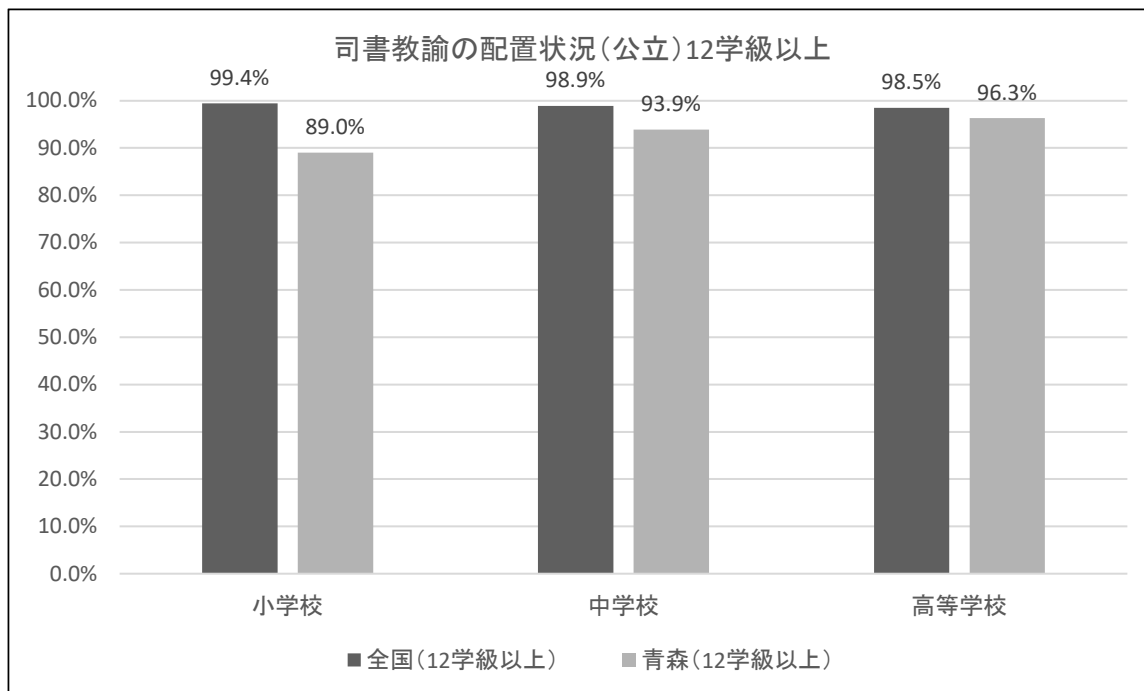
(7) 司書教諭配置状況

設問 11「司書教諭配置人数（発令されている職員）」（令和5年5月1日現在）より司書教諭が1人以上発令されている学校と発令されていない学校を整理した。また、12学級以上の学校には必ず配置することが学校図書館法(昭和二八年法律第一八五号)に定められているので、学校を12学級以上と11学級以下に区別し、校種ごとに学校司書の配置状況を整理した。

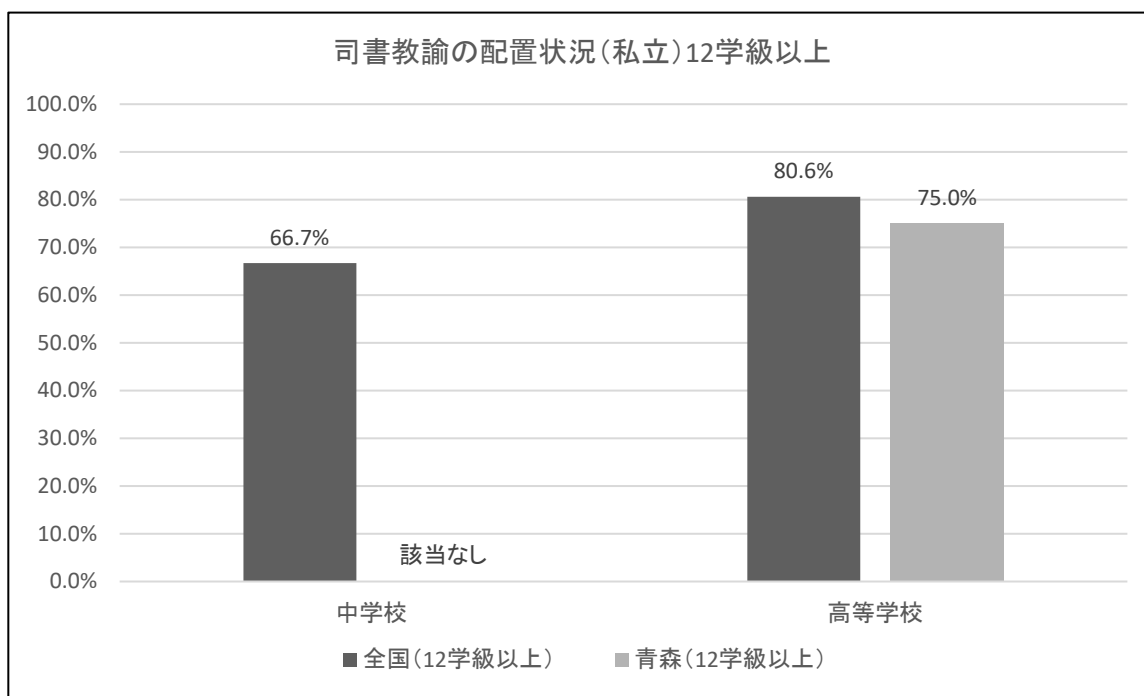
※全国の数値は「令和2年度学校図書館の現状に関する調査」の結果によるもの

① 12学級以上

該当校数：小学校 237 校中 100 校（無回答 1 校）、中学校 127 校中 33 校、高等学校 39 校中 27 校

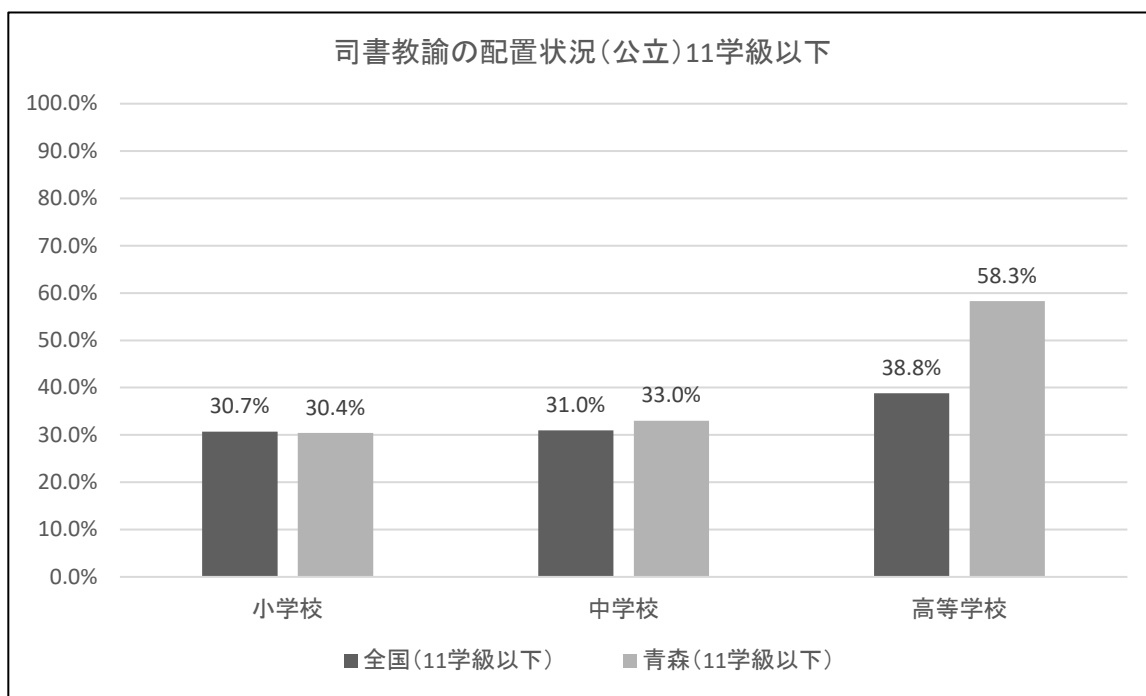


該当校数：中学校 2 校中 0 校、高等学校 9 校中 8 校

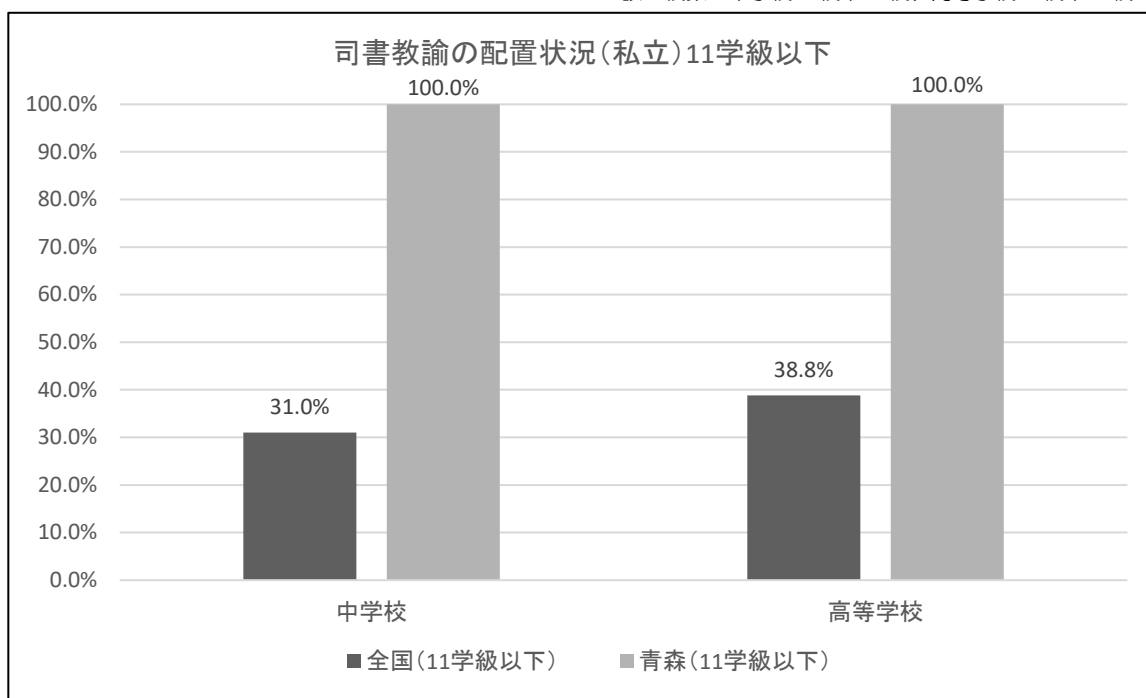


② 11 学級以下

該当校数：小学校 237 校中 135 校（無回答 1 校）、中学校 127 校中 94 校、高等学校 39 校中 12 校



該当校数：中学校 2 校中 2 校、高等学校 9 校中 1 校



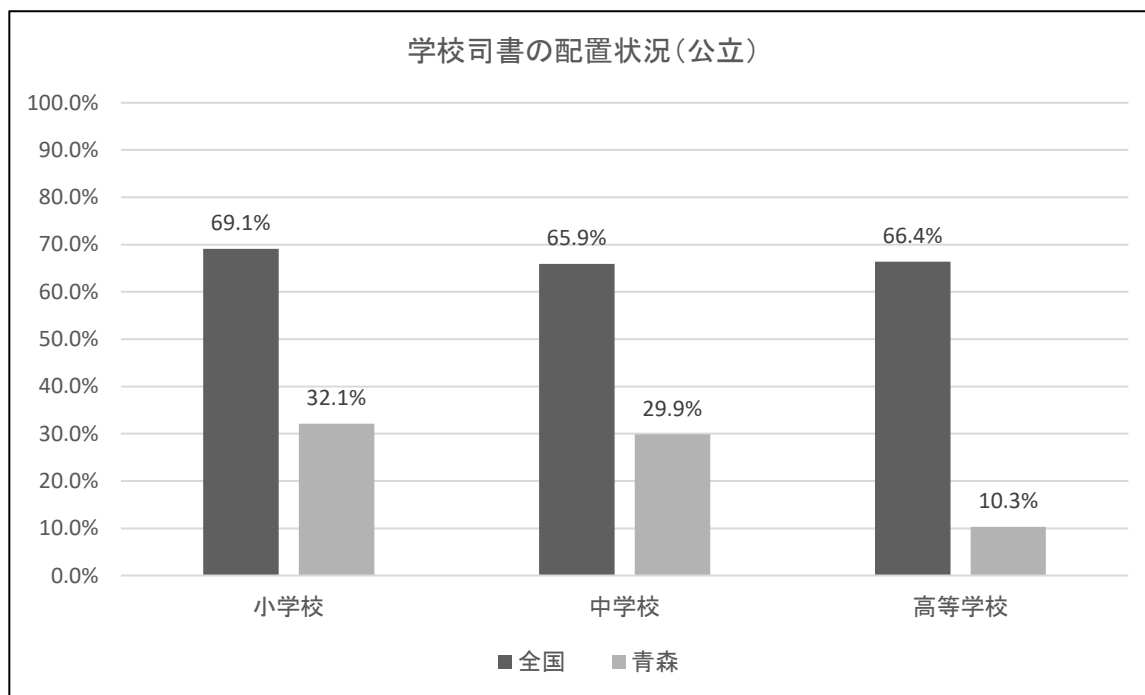
(8) 学校司書配置状況

設問 12「学校司書配置人数」(令和5年5月1日現在)より、学校司書の配置状況を整理した。

※全国の数値は「令和2年度学校図書館の現況に関する調査」の結果によるもの

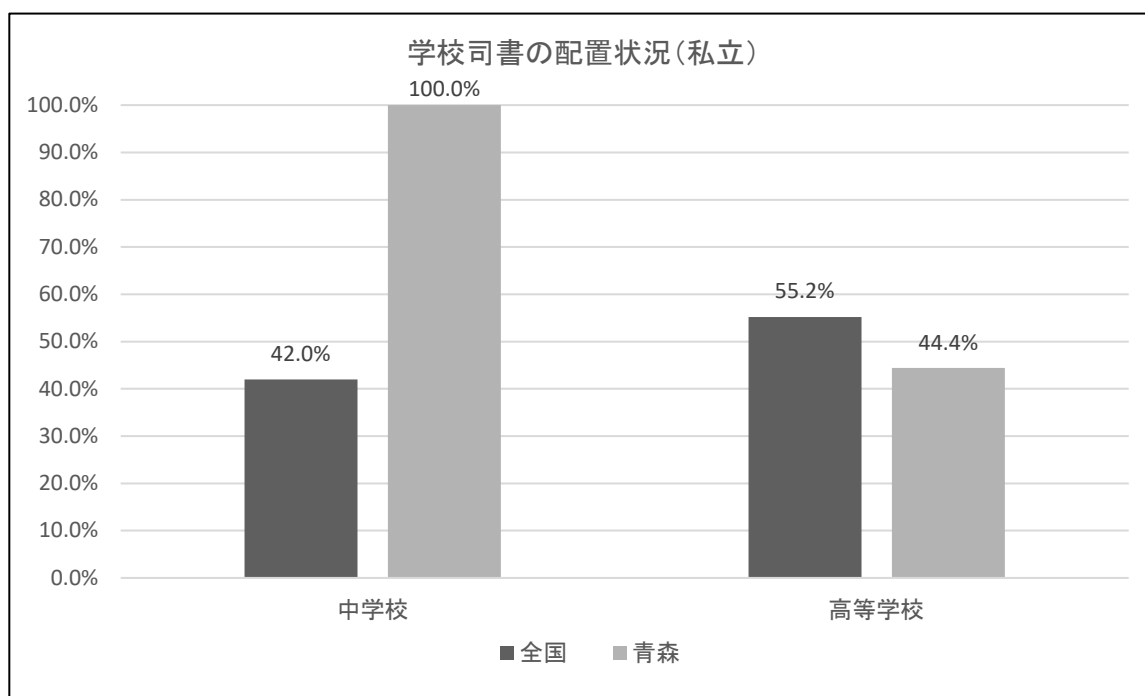
① 公立学校

小学校 (n=237)、中学校 (n=127)、高等学校 (n=39)



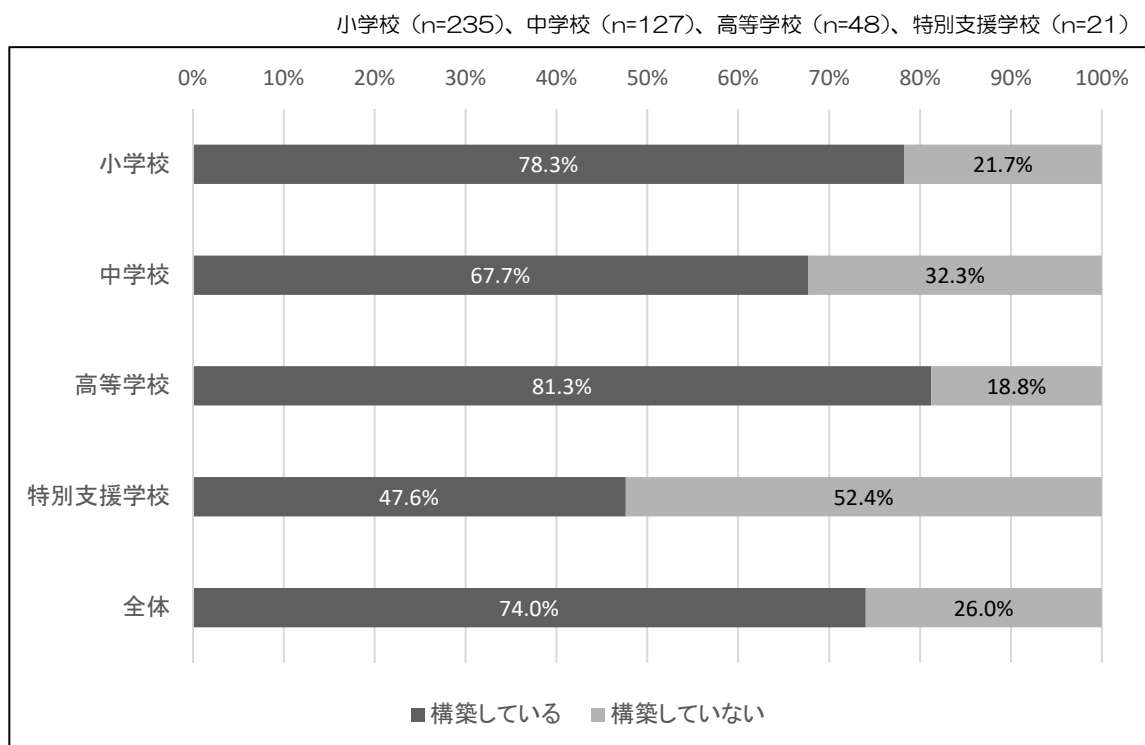
② 私立学校

中学校 (n=2)、高等学校 (n=9)



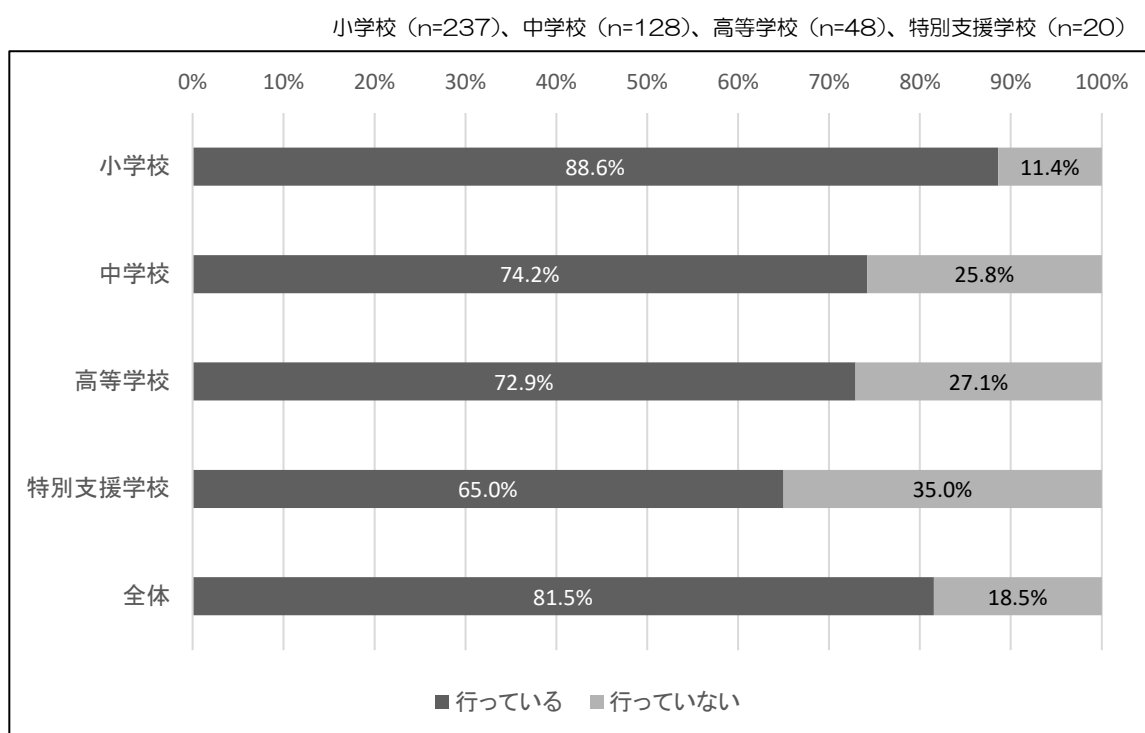
(9) 蔵書のデータベースの構築

設問 13「蔵書のデータベースの構築」について、「構築している」と「構築していない」を整理した。



(10) 計画的な蔵書の破棄・更新

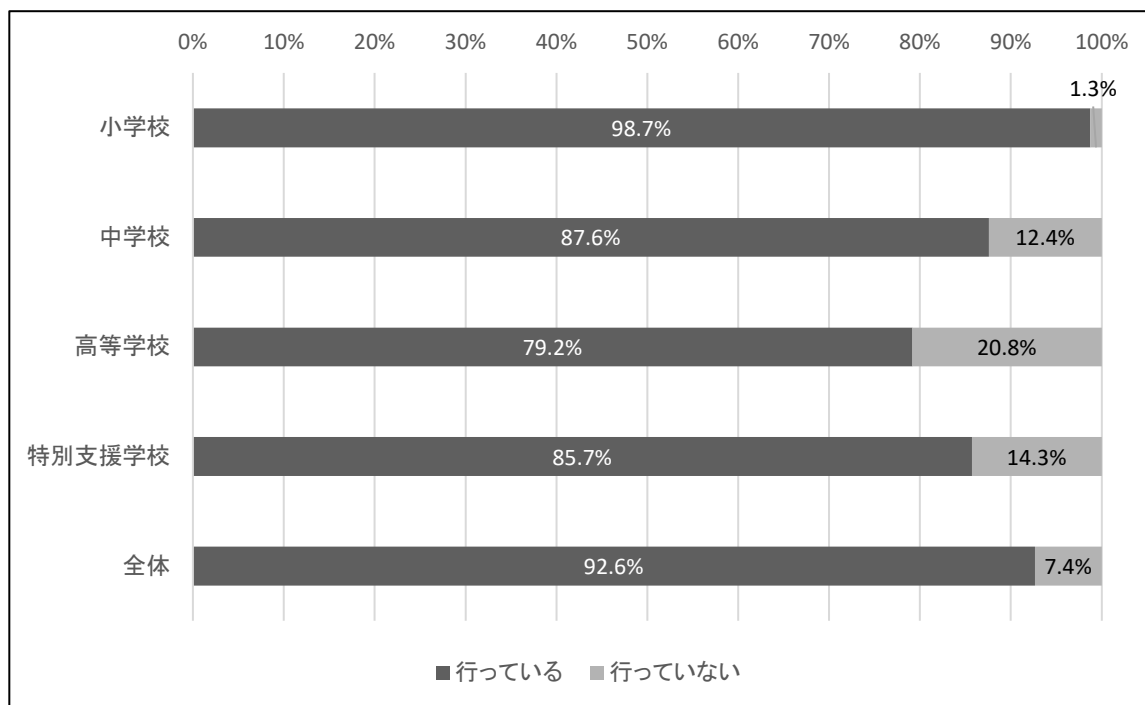
設問 14「計画的な蔵書の破棄・更新」について、「行っている」と「行っていない」を整理した。



(11) 児童・生徒に対する学校図書館の利用指導

設問 15「児童・生徒に対する学校図書館の利用指導」について、「行っている」と「行っていない」を整理した。

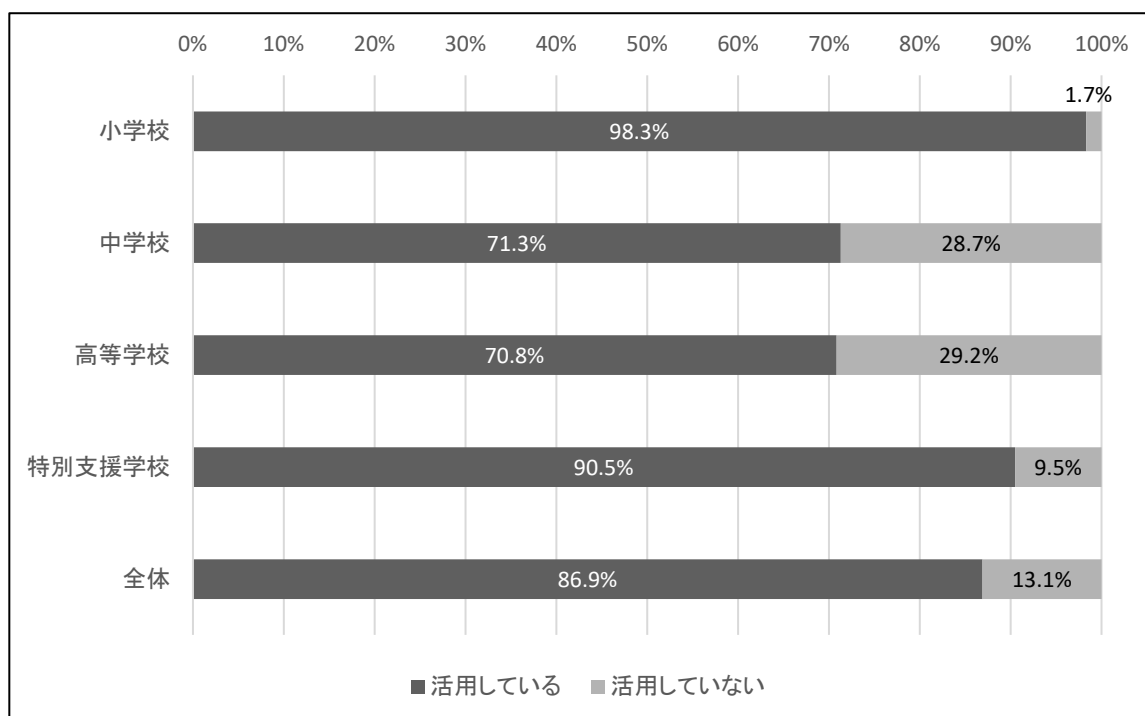
小学校 (n=237)、中学校 (n=129)、高等学校 (n=48)、特別支援学校 (n=21)



(12) 学校図書館の授業での活用

設問 16「学校図書館の授業での活用」について、「活用している」と「活用していない」を整理した。

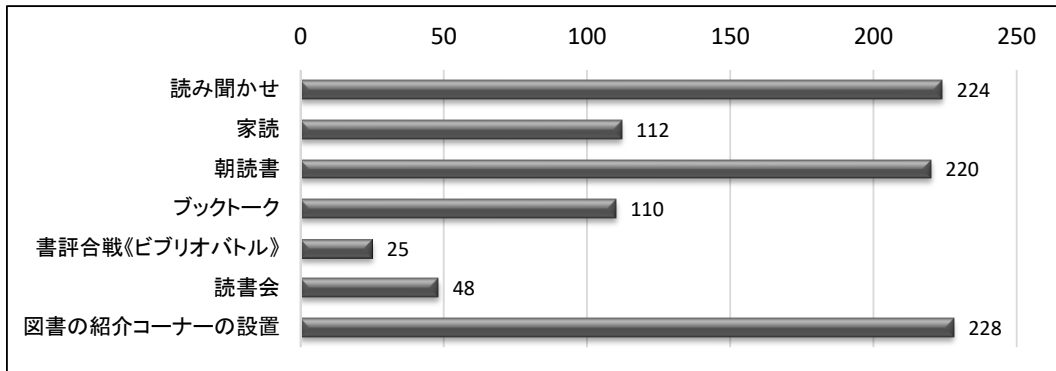
小学校 (n=237)、中学校 (n=129)、高等学校 (n=48)、特別支援学校 (n=21)



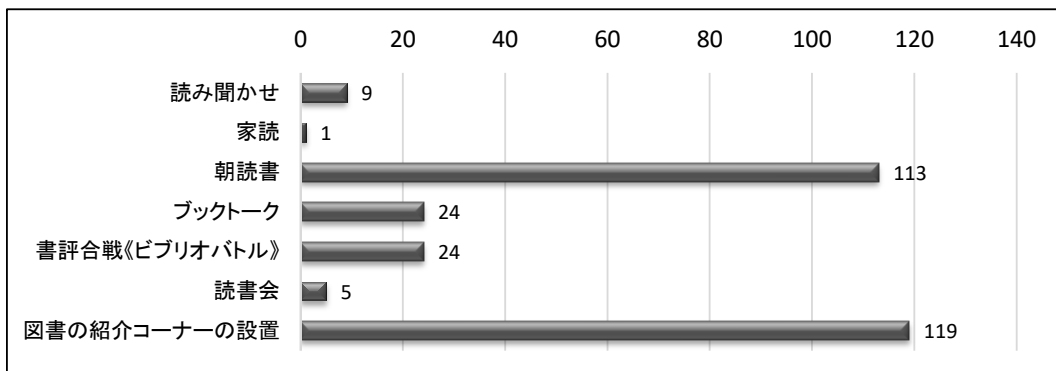
(13) 子どもの読書活動推進に向けた取組の実施状況

設問 17「読み聞かせ」、設問 18「家読」、設問 19「朝読書」、設問 20「ブックトーク」、設問 21「書評合戦」、設問 22「読書会」、設問 23「図書の紹介コーナーの設置」について、「している」と回答した学校数を校種ごとに整理した。

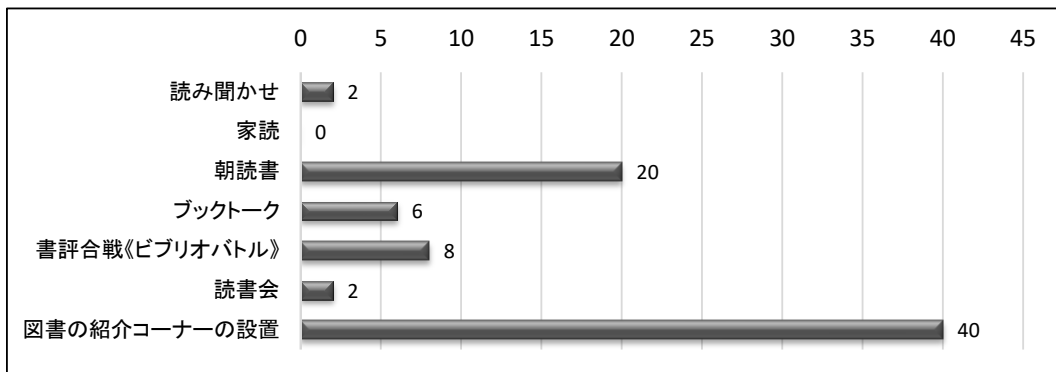
① 小学校 (n=237)



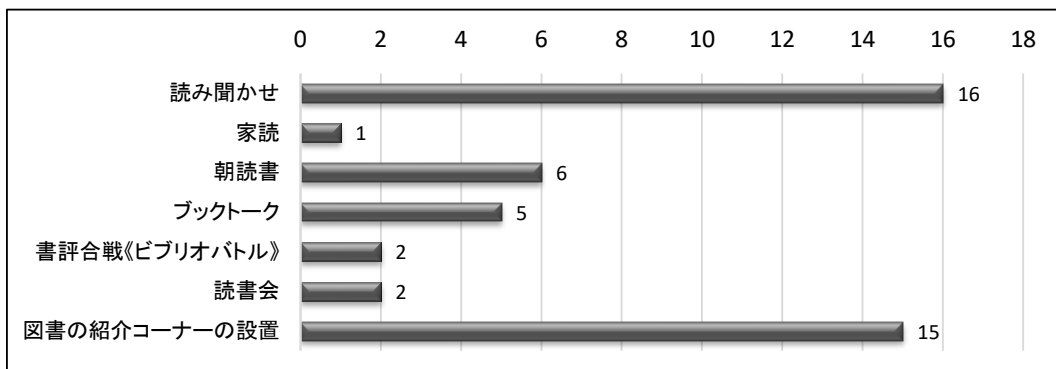
② 中学校 (n=129)



③ 高等学校 (n=48)



④ 特別支援学校 (n=21)



(14) 各学校での取組に関する自由記述

設問 24 子どもの読書活動推進に関して、上記（設問 17～23）以外で実施している取組があれば、記入してください。

※ 原文をそのまま記載 小学校 (n=155)、中学校 (n=57)、高等学校 (n=17)、特別支援学校 (n=8)

① 小学校

[小学校] (n=155)

- 秋の読書週間に、図書委員主催のイベント（しおりづくり）やおすすめの本の紹介を行っている。
- 図書委員会の活動として「図書ビンゴ」を行い、様々なジャンルの本にふれる機会をつくっている。
- 委員会児童による読書週間での活動、パネルシアター、図書館クイズ、読書ビンゴ。
- 図書委員会主催図書まつり。七夕期間：本を借りた人へ短冊を渡し、願い事を図書室前の笹に飾る。読書週間：図書室にある本に関するクイズラリー。読書チャンピオン表彰：年間目標読書量を超えた児童への表彰。（読書の記録ファイル活用。6年間積み重ね。）
- 読書活動推進をねらいとした読書週間や読書月間の設定。外部団体主催による読書感想文コンクールへの応募。読書ビンゴの実施。しおりのプレゼント。多読者の表彰。PTA や外部の人材による読み聞かせ。
- 図書委員会による図書まつり（ビンゴ、クイズラリー）
- 図書委員によるクイズ（課題の本から出題）企画。図書委員による福袋貸し出し。（テーマごとに本を3冊入れた袋を貸し出している）
- 読書の記録をカードに書かせ、学年目標冊数・目標ページを達成した児童を表彰している。また、15分間朝読をする期間を年に2回設けている。
- 図書委員会の活動として、貸し出し冊数のランキングの紹介、新刊本の紹介、おすすめの本の紹介を行った。
- 年に3回読書週間を設け、おすすめの本カードを全校で書いている。図書委員会のイベントで、読書クイズやおすすめの本を紹介しあう読書郵便を行っている。委員会の児童による読み聞かせ。第2図書館の開設。
- 校内の図書委員会が秋の読書週間（2週間程度）にスタンプカードとしおりのプレゼント、全校児童への読書郵便の企画、実施をしている。
- 図書委員会によるおすすめ本の紹介
- 年2回、本の貸出回数が増えるようなカードを配布してシール等を貼り、賞賛している。
- 図書ボランティアによる蔵書整備。各町内会から図書購入補助（図書カード贈与）。図書委員会による図書まつり（しおりづくり・たくさんの本を借りた人の紹介）。
- 本の感想カードの掲示
- 年間3回（春・秋・冬）の読書週間。昼の放送での新刊紹介（図書委員による）。読書目標の設定と表彰。
- 年に3回程度「読書まつり」を実施し、全校でおすすめ本を紹介するシートを作成したり、本の貸出冊数が多い児童を発表したりするなど、子どもたちの読書活動推進につながる企画を行っています。新刊本を紹介するコーナーを設置し、図書室の利用を促す工夫をしています。
- 学年ごとに、年間の読書冊数の目標を設定し、全校児童に読書の記録をつけさせている。図書委員会の活動として「読書まつり」を実施している。
- 図書ビンゴ

- 4月23日「子ども読書の日」に全校お話を実施している。先生方おすすめ本の特設コーナー「ブックカフェ」を実施している。秋の図書館まつり「読書ビンゴ大会」を実施している。6年生対象に「卒業おめでとうお話し会」を3月に予定している。
- 図書まつり
- 年3回の校内読書習慣。各学年への必読図書カードの配布。読書の日。全校読書集会。
- 読書月間を設定し、図書委員がアイデアを出し特別な取り組みをしている。(今年度は、11月から1ヶ月間。読書スタンプラリーとしおり作りを行っている。)
- 図書委員会による「図書館まつり」(クイズ・ビンゴ・本の紹介)
- 図書委員会による図書の紹介やイベント・全校お話し会
- 図書委員会で「秋のブックビンゴ」を行い、9種類の本を読んで、ビンゴスタンプを押し、全部揃ったら、しおりをプレゼントする取組を行っている。
- 子ども達の委員会活動の中で、読書まつり期間を設け、読書郵便、読書ビンゴなどの活動を全校児童に呼びかけ実施している。
- 委員会による図書まつりの実施。ボランティアの方々によるよみきかせ。
- 図書委員会の企画・スタンプラリー・読み聞かせ
- 図書委員会によるイベント令和4年度はビンゴ。地域の図書ボランティアによる読み聞かせ。学級担任によるブックトーク。
- 読書ビンゴ・しおりコンテスト
- 図書委員会で、学校図書館からたくさん本を借りた人や、たくさん本を読んだ人を表彰する。読書祭りを開催している。
- 学期ごとに、図書委員会がイベントを企画、実行し、読書活動推進を行っている。
- 月1回、地域の方による読み聞かせ会が行われています。
- 図書委員会企画の図書祭り
- 市立図書館との連携。図書館利用についての出前授業、移動図書館。図書担当教諭によるアニメーション。図書委員会による読書まつりの実施(読書を啓発するイベント)。
- ペア読書：たてわり班で上学年と下学年のペアをつくり、上学年が下学年に読み聞かせをしたり、感想を交流したりする。
- 読書まつり・必読(しおりプレゼント)
- 図書委員を活用した図書クイズの実施。夏季休業中に読んだ本についての図書紹介カードの作成(全児童に宿題として)。
- 読書まつり～図書館に足を運んでもらえるように、子どもたちが内容を工夫して取り組んでいる。今年度の例として、読み聞かせ・本はどこだゲーム・お話の内容のダウトを探せゲーム・読書画コンクールがある。
- 本の貸し出しポイントカード・図書クイズ
- 読書すごろく(一冊本を借りたら、すごろくカードにスタンプを1つ押してもらおう。5つたまったら、しおりのプレゼントをもらえる。)
- 図書委員がオリジナルのストーリーとイラストで絵本を作り展示している。図書委員がタブレットで「図書館だより」を作製している。
- 各学年のおすすめの本を20冊程度決めていて全校で取り組んでいる。
- 読書習慣の設定
- 学担の先生が学級の児童に読んでもらいたい本を15～20冊選び、教室に常置。全て読破すると賞状

がもらえる。

- アニメーション学習
- 町で実施している子ども司書活動に参加している児童が3名在籍している。その3名の児童の学校での読み聞かせの実施。
- 校内読書習慣を設け、先生方の読み聞かせや読書集会を開いている。たくさん本をかりている子の表彰。
- なかよし読書：たてわり班の高学年が低学年へ読み聞かせをしている。年に3回あり、相手をかえている。
- 図書委員会による図書の紹介
- 図書委員会企画運営の「しおりコンクール」を読書月間（11月）に実施している。（4年、5年、6年）
- 図書委員会による図書館まつり（読み聞かせ←紙芝居、読書ビンゴなど）
- 11月1日～30日の1か月間を読書習慣とし、図書委員を中心に、読書を促す声かけを行った。またポイントカードを発行し、期間中にポイントが貯まった児童に手作りのしおりをプレゼントする取組を行った。
- 図書委員会児童による本の紹介ポップ作り
- 図書委員が放送を使い本の紹介をしている。教員による本の紹介コーナーがある。学習をすすめるうえで参考になる本の各学年への貸し出し。司書教諭と図書委員による本日より「本はともだち」を出して掲示。行事やニュース（新聞を活用）、作者をクローズアップしたコーナーの掲示。
- 読書週間にあわせて図書委員会から本を借りた子に手作りのしおりをプレゼントしている。
- 図書委員会で、本のジャンルでビンゴをやり、手作りのしおりをプレゼントする。
- お話美術館 今年度、読んだ本の中から心に残った場面を絵に描き、全校みんなの作品を展示します。
- 図書委員会主催の時習館まつり（年2回）
- 昼の放送で、児童（図書委員）による本の紹介コーナーを設け、週一回位放送している。
- 図書委員会の児童が、朝読書の時間が1年生の教室で読み書かせを行っている。図書委員会が全校児童に「おすすめの本紹介コンクール」を募集し集まった作品を審査し、図書館前に優秀作品を掲示している。
- 各学年の読書目標を決め（下学年…冊数、上学年…ページ数）、達成できた児童に賞状を渡したり、放送で紹介したりしている。
- 地域のボランティア（ふくろう便）による読みきかせ。（昼休み⇒全校、朝⇒各学級）
- 新刊本の紹介
- 多読賞…読書推進週間を決め、たくさん読んだ子を表彰する。だから本コンクール…各クラスに読んでほしい本を紹介し、図書室の中でその本を探す。その本の絵や感想を書いてコンクールに参加し、図書委員会が表彰する。
- 弘前市電子図書館を朝読書に利用している。
- 国語の教科書に記載されている本を学年ごとにまとめ、大成おすすめブックリストとしてカードを活用し、推進を図っている。
- 学校独自の読書週間を設定している。
- 1. 学校行事に関連したコーナー設置（例：学校用→田・稲の本） 2. 時勢に関連したコーナー設置（例：台風・大雨→防災の本） 3. 新聞コーナー設置 4. 新刊本のおすすめコーナー（先生方による選んだ本）⇒好評です 5. 図書委員による「お話し」の実施
- 長期休業中の本の貸し出し
- 月に1回、読んだ本の中から、おもしろかった等の本を選び、読書感想カードに絵と感想を書いてもら

って、図書室前の廊下に掲示している。

- 地域の団体による読み聞かせ会の実施：朝（8：00～8：15）1,2年2回、3,4年2回、5,6年2回。45分間の読み聞かせ：1,2,3年合同で1回、4,5,6年合同で1回。黒石市立図書館から2ヶ月に1回、20冊の配本と回収。
- 平川市内の読み聞かせボランティア「おはなしこっこん」による読み聞かせ（令和4年度は8回実施）
- 夏休み親子読書（家読）、1・2年生への読書ボランティアによる読み聞かせ
- 読書ビンゴ・読書クイズ・しおりコンクール
- 長期休業後に、全児童に「本のしょうかいカード」を書かせている。長期休業中に、児童一人につき2冊まで貸し出ししている。
- 県立図書館から、巡回図書セットを借用し、図書コーナーに設置し、読書に活用している。（前・後期で入れかえをしている）
- 図書だより：毎月、誕生月の児童と職員におすすめの本の題名、作者名、あらすじ、おすすめポイントなどを書いてもらい、本を持っている写真とともに掲載して、全校児童に配布している。
- スタンプラリー・読書マラソン（カード記入、目標冊数に達したら表彰）
- 校内読書感想画コンクール 年間多読賞表彰
- 図書館ボランティアさんによる読み聞かせ発表会。（小道具や背景などを作り、ステージ上で発表する。）
- 委員会活動（おすすめ本紹介、全校読み聞かせ、読書ビンゴ、しおり作りと配布）・昼休みの貸し出し・学級文庫配置・月1回のお気に入り本音読
- 図書の紹介でICTの活用
- 新しい図書の紹介・委員会児童によるおすすめ図書コーナーの設置・季節ごとの図書室の飾りつけ・読書シールラリー「どくしょの木」の掲示
- 作家を招待して講演会を行っている
- 職員による読み聞かせ
- 児童が大型絵本をつかって全校に読み聞かせしている。（図書委員会）
- 国語教材と、同じシリーズ、同じ作者の本や、ジャンルの同じ本について、紹介し興味をもたせたり、読みかきかせをしている。すきま時間に読み聞かせを行っている。（担任による）
- PTA委員による朝、昼の読み聞かせ・図書委員会による読書企画（読書ビンゴ、ポイントラリー）・学級文庫の配本
- 子ども読書カードを学年ごとに作り、読んでほしい本をリストアップし、読書活動を推進している。三沢市のミナクル9を実施（小・中学校）。
- 毎週末を家庭読書の日として、図書室の本を持たせている。（低学年）・各学年ごとにおすすめの本を教室に揃え、いつでも手にとってすぐによむことができる環境にしている。
- 朝の図書館読書（朝の自習時間に、1学年毎に交代で、図書館で読書をする。20～25分程度）。購入してほしい本のリクエスト募集。年二回読書カード作成（読んだ本の一覧、冊数、乾燥記入）。
- 昼の放送で、図書委員がおすすめの本を紹介している。
- 図書委員会の子が各学年へのおすすめ本を5冊選び、紹介文を書いて提示している。週一回地域の方が来て読み聞かせを行っている。・担任が読んでいる本を紹介している。
- 読書ファイル…読んだ本の第目を書きためていく。しおり作り。クイズ…読み聞かせの後に、その本に関するクイズを出す。
- 読書ビンゴ
- 本の持ち帰り日を作っている。読書スタンプラリー、図書だより。

- 絵本士の資格を持っている支援員による読み聞かせを月2回行っている。
- おすすめの図書が書かれた図書おみくじ・利用者を増やすためのポイントカード・しおりプレゼント・図書キャラクター作り
- 週末全校児童が家で読書に取り組む。
- 読書タイム（業間、週2回）・読書ビンゴ・読書郵便・図書委員による読み聞かせ
- 子ども県民カレッジへの参加
- 必読図書の設定
- 町で「必読書の取り組み」を行っています（学年ごとに、読んだほうがいい本を選定して、呼びかけしています。完読すると、完読証と、しおりがもらえます）。「よむよむラリー」を実施しています（期間中に本を1冊読むごとにシールを1枚もらえます。学年ごとの目標冊数に達するとしおりがもらえます）
- 町や県の巡回図書を閲覧できるように整備している。低・中・高で必読書を決め、読書を推進している。PTAの活動で、図書環境整備や、本の紹介などを行っている。
- 委員会の活動として、図書ビンゴラリー（図書館にある本の中から内容に関する簡単なクイズ）
- 移動図書の設置…教室前廊下に学年ごとのおすすめの本を置いて借りられるようにしている。読書ビンゴ…テーマに沿って選んだ本を読み、ビンゴしたらシールを貼る → 11月の読書推進週間に実施
- 年2回の読書週間の実施（読書と感想文の指導）・学級図書の充実・移動図書館車利用の奨励
- 子どもの読書量を調べるためのアンケート調査・子どもたちが読んだ本の記録・移動図書館の活用
- 図書委員会の児童がおすすめの本のポスターをつくり、全校児童がタブレットで見られるようにしている。
- 地域のボランティア（ふくろう便）による読みきかせ。（昼休み⇒全校、朝⇒各学級）読み聞かせグループによる紙芝居や絵本の読み聞かせを、年に3～4回程行っています。
- 紙しばい、NIE
- 高校生による読み聞かせ実施
- 読書週間の設定。本の紹介カードの作成。
- 毎月、その月に関係した本やおすすめの本、新しい本を図書室前の廊下に掲示（展示）して紹介している。おすすめの本をポスターにして、図書委員会（5,6年生）がポスター作成、掲示作業を行っている。
- 先生方への「おすすめの本」インタビューとその掲示
- 読み聞かせボランティアの活用
- 国語の学習と関連させて、本の帯を作る。
- 図書委員に季節のおすすめ本などを紹介してもらっている。
- 校内における読書週間の設定
- 読書タイム（全校 水曜日 昼）・図書館祭り（図書委員会によるイベント 11月 3日間）。朝のよみきかせ（月1回 全クラス ボランティアの方）。昼のよみきかせ（月2,3回 図書室 昼休み）地域ボランティアの方（お話の森）
- 夏季休業中、地域で行っている朝の読み聞かせ活動「江陽おとぎの広場」に、小学校の図書委員会の児童が参加し、読み聞かせを行っている。・読書週間を年に2回設定し、多読のきっかけ作りをしている。
- 読書スタンプカードや読書ビンゴカードの活用。図書委員による読書クイズ。
- 読書週間の実施
- 読書習慣を設け、ブックウォークや本からクイズ出題などの企画を実践している。
- 朝読書ではなく、昼の読書タイムを実施している。（週4日、13:30～13:40の10分間）

- 年 2 回読書月間の設定、児童の目標読書冊数の設定
- 校内図書フェスティバル（図書委員による読み聞かせやクイズ）
- 読書スタンプラリー。図書委員会の児童が様々な種類から意図的に読んでほしいジャンルの本を選び、おすすめの本として紹介。それを借りるとポイントをもらえ、様々な本を読んでもらうようにしている。
- 「読書ビンゴ」と称して、低・中・高学年ごとに様々なジャンルの本に触れるようなカードを作成し、2 ビンゴごとにしおりをプレゼント。
- 年 3 回（6 月 11 月、2 月）全校で読書月間を設定し、読書感想カードをかいて紹介し合う。夏休みに、地域の方が主催した『多賀鎮守の森で語るべ』（読み聞かせ会）に多数の児童が参加した。
- 年 3 回の読書週間の実施（読書ビンゴ・ポイントカードの活用）。マイブッククーポンで買った本の紹介。卒業を迎える 6 年生へ 1 年生で初めて借りた本の題名を知らせたり、6 年間借りた本のリストをプレゼントしたりする。
- 新書を購入する際に、図書委員会児童が選んだ本の中から、全校児童に投票を呼びかけ、ベスト 10 に入った本を購入した。学校司書とボランティアの方々が鳥獣戯画のミニ絵巻を作製し、6 年生へプレゼントした。学校図書館で一度も借りられていない本のコーナーを作り、その本を選んだ人へしおりのプレゼントを行った。
- 読書週間等に、図書委員会で読書ポイント活動を行っています。ポイントを貯めたら図書ボランティアの方に作っていただいた手作りのしおりをプレゼントしています。
- 読書しまつり（年 2 回）図書委員会主催 図書室スタンプラリーやクイズ大会等を行っている
- 読書週間（10/23～11/17）（スタンプラリー）。読書クエスト（本のクイズ）。図書委員会によるおすすめの本のコーナー作り。タン元に必要な本の提案（学校司書）
- 春と秋の 2 回の読書週間・毎学期、学年ごとに目標冊数を設定し、達成児童の紹介。読書スタンプラリー。
- 各学年で必読図書を 20 冊決め、10 冊、20 冊完読することに賞状をわたしている。
- 図書情報センターによる読み聞かせ・学校司書によるブックトーク
- 読書まつり（6 月、11 月）：図書委員会。しおり作り：図書委員会、図書ボランティア
- 月 1 回、市立図書館の移動図書館車が来校し、理由している。
- 図書ボランティアによる、図書館の飾り付けや、葉作り。図書委員会による、お昼放送での本紹介。学校司書による、本紹介の掲示。・学校司書による、新 1 年生への図書館の利用方法のガイダンス。
- ノーマディア・読書デー（毎月 20 日）を設定し、メディアから離れ、本を読む取り組みを全校で行っている。
- 国語の単元に合わせた並行読書用の本を選書し、教室近くにブックトラックにのせておいている。
- 委員会で読書冊数調べを行い、その結果を掲示しています。
- 図書委員会が年に 2 回「図書室の日」というのを企画し、全校児童がクイズやしおり作りなどを通して、本への関心が高まるようにしている。
- 読書月間を設定し、一人ひとりが読みたい本の種類や量を決め、そのめあてに沿って読書をしている。
- 本を 1 冊借りたらシールが 1 枚もらえる読書月間を行っている。
- 図書委員会で、読書月間に合わせて、キャンペーン（○冊借りるとしおりがもらえる等）を行っている。学年ごとに年間目標冊数を決め、達成児童に賞状を渡す。週 4 回朝読書の時間を設け、全校で取り組んでいる。
- 図書委員会が企画し、昼休みに図書室で本を読んでほしい願いから、3 冊本をかりると「ラッキーくじ」をひいてしおりなどが当たる企画を催した。たくさんの方が本に親しむことができた良い取組だった。

- 図書ボランティアによる図書室整備、しおり配布、年間目標の設定
- 読書週間を設けて、期間中は貸出冊数でポイントを集めて、図書委員が作成したしおりをプレゼントしている。
- 学校図書館だけでなく各教室やホール等に本棚を設置しています。
- 図書室だよりの配信（おすすめの本紹介、図書室で実施する企画の紹介など）。読書ビンゴ（分類を使ったビンゴで、対象の本を読んだならビンゴが埋まっていく。ビンゴ達成者へはしおりをプレゼント）。難読漢字、四字熟語クイズ（廊下に掲示したところ、漢字・四字熟語の本を借りる児童が増えた）。本のポップコンテスト・ハロウィン福笑い（本を借りたら顔のパーツをプレゼントし、みんなで顔作っていく）。ガチャ本（カードにおすすめの本を書いてもらい、ガチャガチャでひくことができる）。

② 中学校

[中学校] (n=57)

- 全校集会での発表
- 図書ポップの作成（委員会活動）・リクエストの実施
- 学級文庫を全クラスに36冊設置し、学内で月ごとにローテーションしている。なお、生徒の希望する図書アンケートをもとにして、広報委員（図書委員会の活動もやっている。）が選書している。
- 巡回図書として、学校図書館の本を学級文庫として配置している。
- 図書だよりを発行し、新刊やおすすめ図書を紹介している。
- 学級文庫の設置
- 生徒の放送による週1回の図書紹介。生徒の興味を引く購入図書選定。図鑑・辞書・資料を使用した調べ学習。図書便りの発行。こどもの読書週間に合わせた読書推進。
- 夏休みの課題作文の選択肢として、各種読書感想文コンクールに出品するための感想文を入れています。
- 学習委員が本の紹介についての動画を作成して配信したり、POPを作って掲示したりしている。
- 図書委員によるポスター制作、図書委員による図書通信を通してのおススメ図書紹介
- 新刊図書の紹介（昼の放送など）
- 今年の職場体験時「みんなに読んでもらいたい本」を生徒が選書した。（押し活の本など、普段選ばないものに目を向けてくれたので幅が広がりました。）
- 通信による生徒のおススメ本の紹介、読みたい本の募集
- 委員会の生徒によるお薦めの本POPづくり。本とPOPを図書室前へ展示している。
- 新刊図書を紹介するリーフレット作り（図書委員会）
- 新刊図書が入った際には、POPの作成をしています。
- 県立図書館から学級文庫用の本を借り、設置している。（各クラス20冊）
- 図書DJ
- 図書館にある本を題材にしたクイズを作り、クイズラリーを行っている。多くの人に図書館に足を運んでもらうことが目的。
- 学級文庫の設置（学校図書館の本から生徒が選書）。県立図書館からの資料の貸し出し支援による学校図書館の充実。
- 夏休みの読書感想文提出の推進
- 図書だよりの発行
- 文化委員会による昼の放送での新刊紹介

- 毎日給食時間に図書委員のおすすめ図書を放送し、おすすめ理由と、置いてある場所を伝え、広報活動に努めた。図書室内ではおすすめ本にラミネートした大版のしおりをはさみ、それと分かるようにしている。
- 昼の放送で読書週間についてお知らせした。
- 渡り廊下に月毎にお薦めの本を展示、貸し出している。
- 巡回図書（図書委員がオススメの本を10～20冊選び、定期的に学級に設置）
- 図書委員会による、図書紹介を週1回昼の放送で行っている。
- 新書紹介のためのポップ・ミニポスター作り
- 学級巡回文庫を2ヶ月に1回ペースで、図書委員が、自分のクラスメートに読んでほしい本を選んで、クラスに置いている。
- 全校集会での図書の紹介（委員会生徒の発表）
- 全校集会で委員会活動として委員が新刊図書を紹介している。夏休みには課題図書（図書室の本を利用）を設定し、学年ごとに読ませ、感想を書かせている。図書室の本の帯を国語の授業で作っている。
- 「巡回図書」として図書委員が選んだ本を学級図書に期間を決めて貸し出しています。
- 図書だよりを発行し、新刊を紹介している。
- 読書推進キャンペーン（図書館の利用促進、読書啓発のための、生徒会図書委員会の取り組み）。学級（教室）への図書館の本の配架と定期的な入れ替え。
- 夏休みの課題として読書感想文を設定。委員会活動の取りくみとして、読書の呼びかけ、読みたい本のアンケート（購入に反映）。
- ミラクル9
- ミラクル9（三沢市で行っている活動）
- 学校司書による「三沢市図書館だより」の発行
- 図書委員会による図書だより（新刊の紹介、おすすめの本など）
- 「図書だより」の発行
- どんな本に関心があるのか、委員会活動を通して調査している。
- 図書委員会の活動で、図書紹介ポスター作り・図書室だより作成、リクエスト本の募集、学校文庫入れかえ作業などを行っている。図書支援員の協力により、多目的ホール、キャリア学習室、相談室などに図書を展示、貸し出しコーナーを設置している。
- ポップコンテスト 全校で本の紹介ポップを作成し、どのポップが1番興味を引くか、投票する。
- 図書委員会の委員が毎月、自分のオススメの本の紹介を図書だよりに掲載し、印刷、配布している。
- 校内読書習慣を年2回設定し、読んだ本の感想を指定された感想用紙に記入させ、図書室前廊下の壁に掲示している。
- 本紹介ポップ大会
- 委員会の生徒による新刊図書の紹介、学級文庫の設置（図書室の本を10冊ずつ各教室へ）
- 給食時、図書委員が、「おすすめの本」を紹介している（放送で）。月1回「図書だより」で「おすすめの本」や新刊本を紹介している。
- （図書委員によるおすすめの本紹介）全校集会で発表
- 図書委員会の生徒がクロムブックを使って、図書委員会のクラスルームを立ち上げ、本の紹介を投稿している。
- 1～2ヶ月に1度、地域にある南郷図書館の方が学校に来てくださり、ブックトークをしていただいております。

- ポスターの掲示・おすすめの紹介
- 朝読書で読んだ本の記録を掲示し感想を共有する。校内課題図書の設定（国語科）。朝読書用の本を図書室から出す（選書して、各教室に分けて配置する）。
- 年に2回の読書習慣の実施（朝自習） 6月…図書室の小説 10月…図書室のノンフィクション 読んで小さなレポート（感想+α）を書く。 → 掲示 図書委員による全校朝会での紹介、よいものは本とセットで図書室に掲示など
- 読書まつり（委員会活動）
- 文化祭では、図書局企画によるビブリオバトルを開催し、生徒代表6名による書評合戦を行い、参加者との意見交流などを行っている。今年で5年目となり、生徒の中にビブリオバトルが定着してきている。読書週間に図書室前のホールに「本のなる木」のポスターを掲示し、「好きなジャンル」「好きな登場人物」などについて生徒が付せんに記入し、貼付する活動を行っている。

③ 高等学校

[高等学校] (n=17)

- 図書館だよりの発行（年6回）新着図書案内の発行（年4回）館報「無限」の発行（年2回）特別展示の開催（年4回）
- 文化祭での図書委員の展示、アンケート、書籍の紹介・新刊案内（月ごと）
- 年6回図書通信を発行している。（図書委員が作成）
- 「図書館だよりの」を発行している。・図書購入希望調査を行い、読みたい本の機能をなるべくかなえるようにしている。
- 図書だよりで、図書委員および司書教諭が薦める図書を紹介している。
- 年間5回の図書館購入図書の希望調べを全生徒と教職員に対して実施しており希望をもとにかかりの教員が選択して購入している。生徒が読みたい本を購入していることは読書活動推進に繋がっている。
- 青森県近代文学館より、講師をお呼びして「教室で出会った作家とあおもり」と題して教養講座を実施した。
- 図書のPOP作成、掲示 図書だよりによる図書紹介
- 教室へ図書（10～15冊程度）を運んで掲示するミニ移動図書館。
- ポスター掲示・図書便りの発行・新刊図書の購入
- 図書館の蔵書を移動学校文庫として各HRに置いて図書を手に取ってもらう。（15冊ほどが入る箱を用意。選書は図書委員が行い、2～3週間程度で箱は交換する。）
- 図書だよりの発行・図書室でのハンドベルの演奏会（R4）・図書おみくじの設置（R5）
- 授業（表現、現代の国語等）でポップを作っている・廊下に本の閲覧コーナーをつくる・本のリクエスト（購入希望）を生徒、教員からとる
- 図書館だよりの発行
- 図書館だよりの発行（年18～19回）、文化祭での展示
- 読書習慣等のポスター掲示、「ちいさな図書館」（カラーボックスに本を収納）を2か所に設置
- 登校（始業時間）から朝のSHRまでの10分間で全校一斉に朝の読書を行っている。

④ 特別支援学校

[特別支援学校] (n=8)

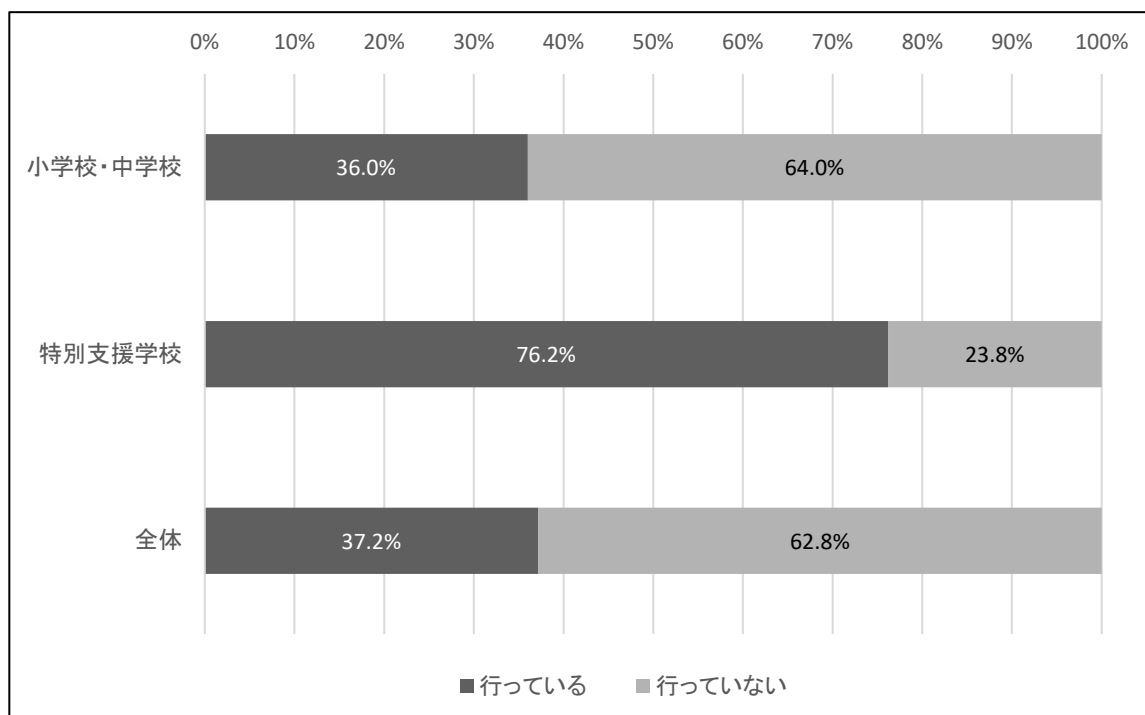
- 青森市民図書館と連携し、各月のテーマ添った図書を借りている。借りた図書は「愛・Eye 文庫」というコーナーに並べ、幼児児童生徒が見やすいよう陳列し、貸し出しを行っている。
- 図書室にある本を教員が点訳をして、教科の授業や余暇活動で活用している。
- 11/27(月)～12/15(金)まで読書習慣を設定し、小学部全員(7名)で100冊読書しようと取り組み中です。
- 前期、後期それぞれで学部毎に借りた本の冊数の上位3名を読書賞として学期末に賞状・賞品を贈り表彰している。
- 「多読賞」の表彰 図書委員会が企画し、年間で借りた本が多かった生徒を表彰している。
- 読書賞の設定(学期毎に20冊以上読んだ児童・生徒を表彰)
- 職員へ購入図書の紹介・全校集会で児童生徒へ図書の紹介
- 子どもから読みたい本のリクエストを出してもらい、つがる市立図書館から毎月100冊本を借りている。

(15) 障害のある子どもへの読書活動支援

設問 25「障害のある子どもへの読書活動支援」について「行っている」と「行っていない」を整理した。

※特別支援学級を有しない小・中学校と高等学校を除く

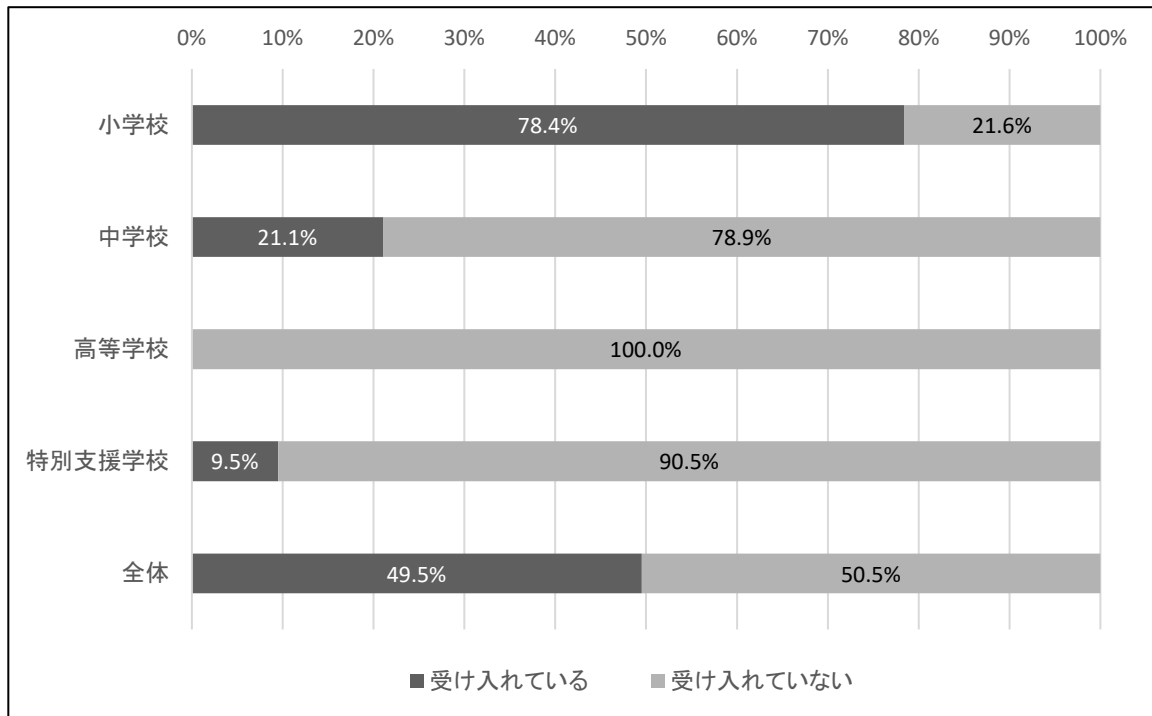
小学校 (n=227)、中学校 (n=120)、特別支援学校 (n=21)



(16) 保護者や地域のボランティアの受け入れ

設問 26「保護者や地域のボランティアの受け入れ」について「受け入れている」と「受け入れていない」を整理した。

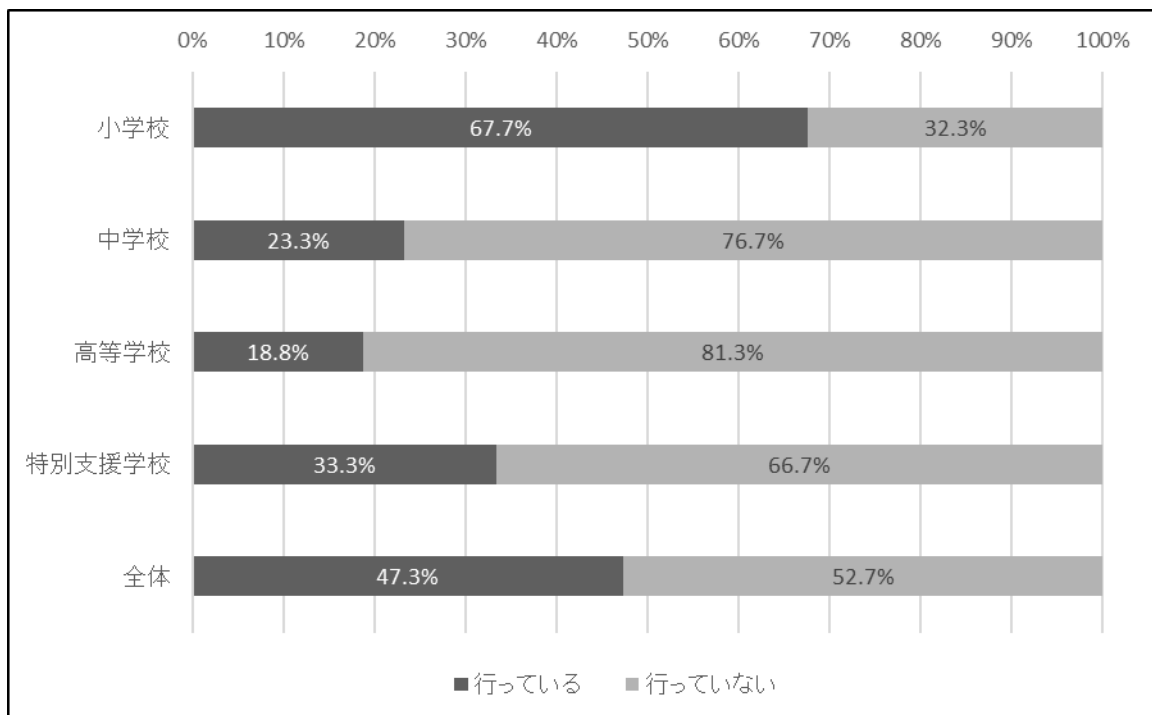
小学校 (n=236)、中学校 (n=128)、高等学校 (n=47)、特別支援学校 (n=21)



(17) 公立図書館と連携した取組

設問 27「公立図書館等と連携した取組」(公民館や児童館の図書室を含む)について、「行っている」と「行っていない」を整理した。

小学校 (n=235)、中学校 (n=129)、高等学校 (n=48)、特別支援学校 (n=21)



(18) 子ども読書活動推進に関する自由記述

設問 28 子どもの読書活動推進に関して、お気づきの点などをご自由にお書きください。

※ 原文をそのまま記載

小学校 (n=49)、中学校 (n=20)、高等学校 (n=16)、特別支援学校 (n=5)

① 小学校

[小学校] (n=49)

- 読書はなれが進んでいる気がして、どうすれば読書好きが増えるかを試行錯誤しているところです。
- 司書教諭の発令はあるものの、学担としての役割を優先せざるをえない。図書館に常駐して児童や教員にすぐにレファレンスできる学校司書の配置を強く希望します。
- 以前から本をたくさん読む子と読まない子の読書量の格差を感じていた。子ども同士で本を紹介し合える企画や、授業・委員会活動など、学校の中で計画し、一年の計画にしっかり入れて行けたらよい、と思う。
- 学校図書館を効果的に活用した授業づくりには、学級担当一人では難しい。司書教諭の配置はあるものの、授業づくりに関わっていけるほど、時間的余裕はない。図書館利用に関して初期の小学校にも学校司書が配置されたら、学校図書館の利活用が今よりもっと進むと思う。
- 市民図書館が様々な企画を催しているので、積極的に本を借りることができる。
- 感染症対策の制限がなくなり、児童が自由に図書室及び図書を利用できるようになったことはとても喜ばしいことです。今年度の夏の厳しさを考えると、エアコンの設置が必要だと考えます。
- 読書への関心を高めるためには、教師の働きかけが大切だと思います。本校では、先生方が様々な学習で学校図書館を活用しています。そのため、児童と本との関わりが多く、一人一人が積極的に利用しています。今後も、読書活動推進を進めていきたいです。
- 児童に、読書習慣が身に付いていないことを痛感しています。学校図書館の機能を存分に働かせ、授業の中で学校図書館や図書を最大限に活用していくために各学校への学校司書の配置を希望します。
- 本校では、夏休み・冬休みを利用して、「親子読書」を行っている。外国人を両親にもっている女の子のお母さんから、「娘が、『ソロリ』を読んでくれたので、どんなお話かわかりました。」と書いた文章を読み、「親子読書」の親から子への一方通行的なものだけでなく、逆のあり方を体験でき、心が温かくなりました。
- 図書委員が各学年におすすめの本のポスター作りをし、廊下に掲示している。図書室だけでなく、各階の廊下に図書コーナーを設置し、定期的に本を入れかえたり、「としょ室だより」等の掲示をしたりして環境を整えている。
- 読書を推進することで子どもの世界が広がり、ゲームや動画視聴の時間が減少し、成長につながっていると感じています。今後も読書活動を推進していきたいです。
- 高学年の読書意欲を向上させることが課題である。課題を解決するための取組があれば知りたい。
- 地域人材の発掘・予算がもっと欲しい。
- 県立図書館や市立図書館との連携で、朝読用の本や調べ物の本がかりられて助かっています。
- 地域の読みきかせボランティアの方々にとってもお世話になっていて、ありがたいと思っています。
- 新しい本を購入できる予算が少ない。
- 親子読書をやりたいと思っているが、保護者の協力が得られるか心配でやっていない。そこまで強要していいのか、できるものなのか、説得する自信がない。どういうふうにアプローチすればいいのですか？
- 学校司書が配置されるといいなと思います。
- 各校に1名は司書教諭がほしい。学級担任が業務のかたわら図書室管理をするのはとても大変だし、難

しい。

- 青森県全部の学校図書館や地域の図書館がデータベース化されつながってほしいです。その中で、どの子も自分が読みたい紙の本や電子図書を自由に選び借りる。自由に返すことができたらよいと思います。そのためには、まず県内でデータベース化されていない地域をなくし、その利用を支援するマンパワーの確保をすると思います。
- 昼休み、図書室に来るよう委員会でも取り組んでいますが、なかなか読書する人が増えずにいます。
- インターネットでなんでも見たり調べたりできるため本を読んだり本で調べたりする機会が少なくなっている。児童が手にとる本もテレビ等で知っているものがほとんど。本の楽しさを教えることができればよいなと思っている。
- 子どもたちは新刊本に興味を示します。廊下や図書室内に、新刊本やそれに関連した本のコーナーを設置することで「今日の図書室はどんなコーナーがあるのかな？」といったワクワク感が読書率アップにつながっていると感じます。
- 児童図書費予算より公費購入予算の割合が高くなっている。公費で購入した本は次年度監査のため、自由に貸出できず、図書室のみでの閲覧となっている。自由に貸出できるのは次年度監査後となり、新刊を購入しても貸し出しできない。他校ではどのようにしているのかよい方法があれば参考にしたい。
- 学校図書館の蔵書がまだまだ少ない。
- 情報メディアの発達による読書離れを実感しているが、読書のよさは ICT 機器の利用とも関連させることで今の子どもたちに入りやすくなると考えている。(本のよさとは分けて考えている。)
- 市内でも学校によって図書館運営の IT 化にばらつきがある。本校は、PC がなく手書きカードによる貸し出しである。県内でシステムが統一されるとありがたい。・外部の図書館司書が配置されると教職員の負担軽減になる。
- 安定して予算を確保してほしい。
- 朝は、読書で心を落ち着かせてから学習に入る。朝読書は有効である。・本をデジタルで読む時代になってきているが、文字の大きさ、光などの点から、視力の低下を心配している。
- 学校規模に応じた取組をしておりますことを、ご理解いただけますよう、お願いいたします。
- 予算がつくと多くの本を購入できる。・古い本の処分に困難がある。
- 今後、図書のデータベース化と貸し出しの電子化を進めていきたい。
- マンガ本について職員間の見解の違いがあるが、3 年前から購入冊数を増やしたところ、5・6 年生の読書量が増えました。
- 学校で、子どもが興味をもつような活動を考えたり、家庭への呼びかけをしたりしているが、学校内や家庭内での読書が減ってきているように感じている。読書の習慣をどう促していけばよいか、悩んでいる。
- 司書教諭が学級担任、その他の分掌と兼務のため、勤務時間内で図書館整備の時間がとれず持ち帰り、残業、休日出勤をどうしてもせざるをえない。図書館整備の仕事も好きな業務なのでやっているが、どこか中途半端な気持ちを抱えてしまう。県立図書館、六戸町立図書館のサポート事業のおかげで図書館はとても使いやすくなった。(3 年前)
- 子どもの読書離れが言われている昨今なので、読書推進のために、これからも様々な活動をしていく必要があると思っています。
- 一人一台端末の導入により、調べ活動が本よりインターネットを活用する場面が増えた。本で調べるよさも伝えていきたい。
- 電子書籍や読書の普及で、家での読書の機会が減っている。そのため読書が習慣化していない児童が増

えている。

- 本を購入するためのお金があれば、いくらでも子どもたちの興味にあった新刊を選ぶことができる。この調査を学校の取組だけにとどめず、本をたくさん購入できる未来づくりのために活用していただきたい。
- 休み時間に読書をする児童は少なく、委員会活動などでゆっくと読書時間を確保する取組も現段階では難しい。可能な取組としては、授業での効果的な活用方法や学級図書を選定の仕方などを工夫することが、読書活動推進に有効であると考えている。
- 学校図書館の整備は職員数の少ない学校ではなかなか時間がとれず難しいため、何らかの支援をいただける制度があれば大変ありがたいです。(ラベリング、データベース構築など)
- 八戸市はマイブッククーポンがもらえます。それに合わせて各書店さんもコーナーをつくるなど工夫してくださっています。子どもたちが好きな本を手にとって買うよい機会になっていると思います。
- ブックトークは本のプロに紹介してもらうことで、様々なジャンルの本に出会うことができ非常に効果的だと思う。
- 家庭での読書の機会が減ってきているようです。学校と家庭と図書館等で協力していきたいです。
- 学校司書による図書および図書室整備により、子どもたちが読書に対する関心を高めることにつながっていてありがたいです。
- 学校の担当者だけでは気がつかないことや専門性が高い内容のことは、学校司書に相談し、助言を受けている。また保護者と地域の方による図書ボランティアの方々も学校司書と連携して活動してくださっている。このような方々の力をかりて子どもの読書活動推進に努めていけると実感している。
- 学校司書が各学校にいてほしい。
- 他校がどのような取組をしているのか、知りたいです。
- 家読に取り組ませたことがなかったので、チャレンジしてみたいと思った。

② 中学校

[中学校] (n=20)

- 学校司書など図書館運営に専念できる職員の配置が必要。
- 調査の形式は、紙媒体による手書きではなく、電子媒体による入力式の方が望ましい。
- ブックトークなどにも興味があるが、大規模の学校全体で取り組むことへの難しさを感じている。
- 新しいマンガを入れると生徒も多く足を運んでくれます。まずは足を運ぶきっかけ作りが図書館へ来てくれることへつながっていると思います。あとは、生徒からの要望を取り入れて選書しています。
- 本校では、朝読書を各学期の終わり頃に数日行っている。普段は、基礎固めドリルに取り組んでいる。
- 本が好きな生徒はどんどん本を借りていくが、そうでない生徒はこちらから働きかけないと借りていかない傾向が強い。教職員の読書離れも見られ、頭が痛い。全校集会での発表でアピールしている。
- 授業時数軽減等がなく司書教諭としての仕事をする時間がなかなかとれなかったり、司書教諭の配置がなかったり、もっと図書館を活用し活性化させたいと思うものの、現状ではなかなか難しいです。
- 調べ学習を行うのに、以前は学校図書館を利用していましたが、今はタブレットを使っただけの活動が主となり、段々と学校図書館を利用する人や回数が減ってきています。読書の良さをどう伝え理解してもらうかが課題です。
- 今はタブレット端末で調べたいものをすぐ調べられてしまうので、図書館で調べ学習というのも難しくなっている。(本の情報は更新されない)本に触れてほしいと思うが、なかなか難しい。公共の図書館と連携して、本もデジタルで読めるという県もあるらしく、常に新しい図書と触れ合えるという

のは魅力的。青森もそうなってほしい。

- 4月の図書館利用の説明の仕方を今年度変えました。→利用者数が少しですが増えました。利用しやすい、利用をどんどんしていいのだ、と思わせることが大事と気づきました。
- 様々なジャンルの本を置くように、現在ある本を確認しながら購入している。授業、昼休み、放課後等、図書室に親しめる時間を適宜入れ、生徒が本に興味をもつように工夫している。
- 学校司書が月1回でも来校してくれるような制度があればいい。
- 良い推進方法を教えていただいて、参考にしたいと思います。
- 各校に学校司書を配置（教諭との兼任ではなくという意味で）して、図書の整備と読書活動の推進をお願いしたい。
- 今年度から担当になったので、昨年に関するものは詳しくわかりませんでした。
- TRCへの注文のみで購入しているが、子どもがすぐに読みたい本がある場合、時間がかかる。すると、子どもお関心は、他に移ってしまい、読みたい時に本が届かないという状況がある。よって、1割でも2割でも、書店（身近な）からの購入が可能になれば、子どもたちのニーズ（時間的なこと）にこたえられると思う。
- 図書室での仕事をいろいろしたいとは思っているが、授業や部活、行事に追われてなかなかできないのが実情です。
- 中学生の読書の時間を確保するのはなかなか難しい。朝読書はなくしたくない。崩さないためにはある程度のルールは必要。
- 県立図書館の巡回支援に感謝いたします。
- 文字が多い本は嫌厭されることが多く、マンガなどをよむために図書室を利用する生徒が増えてきているように感じます。読書を楽しむための企画として何かよいものがあればおしえていただきたいと思っています。

③ 高等学校

[高等学校] (n=16)

- 本校でも読書離れを危惧しております。生徒に手にとってもらえるようなPOP作りや本のレイアウトの工夫、さらには直木賞や芥川賞、本屋大賞など候補作を含めて特別コーナーを設けるなど生徒の興味、関心を引き出す工夫をしています。受験においても早い時期から読書は必要不可欠であるということを理解させながら推し進めていく考えです。そのためにも図書購入費等の図書館充実に向けた助成をお願いいたします。
- 本を借りにくる生徒は少ないです。
- どちらかというと読書より学習に多く時間がとられている。教室と図書館が離れていてすぐ移動できない。
- 部活動や様々な行事、講習等で読書の時間がとれていない。
- 第6次学校図書館図書整備等5か年計画で、新聞配備費として総額190億円（単年度38億円）が地方交付税措置されているとの情報が全国学校図書館協議会から届いていますが、高校職員に内容がわかるように説明する必要があると思います。
- ICTの推進に伴って、生徒の読書離れは、より一層顕著になったと痛感しています。
- 最近は活字離れが多く、スマートフォンやタブレットの利用を通して本へつながる活動が必要。
- 1人に1台のタブレット端末が支給され、調べ物をする等の利用はますます減っていくと思う。蔵書のバランスを大幅に変える時期ではないかと考えている。

- 読書離れが進んでいるように感じる。スマートフォンでの読書をうまく活用するようにすればよいと思う。
- 読み聞かせ（先生方による）を定期的に行っていますが、タブレットやプロジェクターを用いての読み聞かせとなっている。純粋に読んでいるのを聞いてイメージできないのではと考える。一方で、読み聞かせをしていただくには、しかたがないことなのかと考えたりもします。
- 楽しみとして読書する生徒は限定的である。課題等で指示されない限りは、動画視聴とゲームで日々を過ごしている。
- 朝読書を継続することで、各自で興味のある本をそれぞれのペースで読んでいるので、抵抗を感じていない生徒には本を読む習慣が付き、効果を感じている。
- 予算が少ない。年々減少している。
- 学校司書の配置を早期にお願いしたい。
- 司書教諭がない学校であるため、なかなか図書室の整備が行きとどかない。やはり専門家の力が必要である。
- 図書の担当者が司書教諭 1 名であるため、図書関係のことに手がまわらない。（校務分掌の部長、教科主任もしながら、部活や会議、出張、通常の授業の他、やるが多すぎて図書の方にまで、手がまわっていないことが現状である。）

④ 特別支援学校

[特別支援学校] (n=5)

- 本校は視覚障害のある児童生徒が在籍しているため、市販の書籍は読みづらいことが多い。図書室には大型絵本など、書籍の拡大版を用意したり、音声で聞くことのできるデージー図書を活用したりしながら、読書に取り組めるようにしている。視覚障害のある児童生徒が取り組んでいる音声による読書活動について知っていただくとともに、もっと音声によるデージー図書の認知度や普及が高まることを期待する。
- 読書活動の推進にあたり、学校にある本には限りがある。しかし、本校の子ども達の実態を踏まえると、図書館などへ借りに行くのが難しい場合もある。もし、図書館の本がデジタル化され、kindleのようにタブレットで読めるようになると、本の種類だけでなく、読書の方法（拡大したり、読みあげ機能使ったり）も増やすことができる。もちろん無料で、という条件が必要なため、難しいと思うが、これからの時代を考えると、貸し借りや読み方の選択肢が増えると喜び子供が増えるのではないかと感じています。
- 本棚が設置されている場所にテーブルや椅子がなかったため、本を借りて教室で読んでいる状態である。今年度中にテーブルや椅子を設置し読書活動に取り組みやすい環境を整備する予定である。
- 障害により読字が困難な児童・生徒のために、さわる絵本や音の出る絵本、マルチメディア DAISY 図書などを取り入れている。
- 予算がしっかりつくとうよいと思います。（書籍購入、図書室の整備など）